

環境・社会活動報告書 2008

環境にやさしい、人にやさしい百貨店

株式会社 **西武百貨店**



この報告書の内容に関する
お問い合わせ先

株式会社 西武百貨店
店舗運営部環境推進担当

郵便番号 171-8569
東京都豊島区南池袋1丁目28番1号
西武百貨店池袋本店書籍館6階
電話 03 (5949) 3514
FAX 03 (5949) 3550
西武百貨店ホームページ
<http://www.seibu.co.jp/>
(トップページの「お問い合わせ」から、
お入り下さい)

発行日 2008年8月11日

本報告書は、環境に配慮したFSC認証紙を使用し、
大豆インキを使って、
「水なし印刷」で印刷しています。
水なし印刷とは、
従来のオフセット印刷の原理を使い、
VOC(揮発性有機化合物)とCO₂(二酸化炭素)を
削減する環境に対応した印刷方式です。



編集方針

西武百貨店は1999年4月、百貨店業界で初めて国際環境規格ISO14001を取得し、その翌年2000年より環境保全活動の報告書を発行しております。2003年からは『環境・社会活動報告書』として社会貢献活動も含めた報告書に改め、今回で通算9冊目の発行となります。

本報告書は2007年度の私ども西武百貨店の環境保全活動を中心に、社会活動および経済的活動をとりまとめました。2008年2月よりミレニアムリテイリンググループにも環境推進組織を置き、環境活動を加速させるなか、グループ会社であるそごうとの合同企画についても報告させていただきます。誌面では毎年、百貨店業の環境活動の概要についても記載しております。お客さま、地域の皆さま、お取引先の皆さま、および地球環境保全の視点から百貨店の環境活動に関心をお持ちの方々に活動の全体像をあわせてご紹介し、私どもの環境活動に対する考え方と具体的な取り組みをご理解いただく一助となればと考えています。

なお、本報告書は環境省『環境報告ガイドライン2007年版』を踏まえ、「環境報告書の記載事項等の手引き」に定められた基本的枠組みに沿って作成しました。

本報告書について、皆さまからたくさんのご意見・ご感想をお寄せいただけると幸いです。

本報告対象期間

2007年事業年度(2007年3月～2008年2月)
* 一部2008年3月以降の報告と中期目標を含みます。

報告対象組織

ISO14001規格取得サイト
株式会社西武百貨店 16店舗・全事業所
株式会社ミレニアムリテイリングMD 統括部、総務部

報告対象分野

環境的側面・社会的側面・経済的側面

参考

環境省『環境報告ガイドライン 2007年版』
環境省『平成15年度環境報告書基準委員会報告書』
経済産業省『ステークホルダー重視による環境レポート
ティングガイドライン 2001』
GRI『GRI サステナビリティレポートガイドライン
2002』

発行

株式会社西武百貨店

- 1 編集方針
- 2 会社概要
- 3 トップマネジメント・コミットメント
- 4 環境方針
- 5 環境推進の中期ビジョンと活動目標

第1章 環境活動の歩みと成果

- 6 環境目標達成の進捗
- 7 環境・社会活動の歩み
- 9 西武百貨店の事業活動と環境保全活動
- 11 2007年度の環境活動結果
- 13 2007年度 店舗の環境目標達成状況
- 15 2007年度 環境会計

第2章 環境マネジメントシステム

- 17 環境マネジメントの仕組みと運用状況
- 19 従業員への環境教育の徹底
- 20 社員の環境意識 ー全社員アンケートから
- 21 環境マネジメントシステムの点検と改善
- 22 更新審査

第3章 目標達成へ向けた取り組み

- 23 環境にやさしい店舗づくりと
店舗オペレーション
- 25 環境にやさしい商品や
ライフスタイルの提案
- 27 西武百貨店が提案する
オリジナル・エコバッグ
- 28 法人外商部
環境ビジネスへの取り組み
- 29 人にやさしい百貨店として
従業員の働く環境
- 30 お客さまの安全安心を守るために
- 31 店舗の地域活動・社会貢献活動
- 34 環境・社会活動の情報提供
社外とのコミュニケーション

CONTENTS

表紙：2007年から2008年の活動のなかで、社員の提案(岡崎店・矢野紀子さん)からラッピングエコバッグが誕生しました。2007年度の環境活動のひとつの成果として、これを水上多摩江さんのイラストレーションによりご紹介します。

会社概要

株式会社 西武百貨店 (THE SEIBU DEPARTMENT STORES,LTD.)

本社所在地 郵便番号 171-8569
 東京都豊島区南池袋 1 丁目 28 番 1 号
 設立 1940 年 3 月 14 日
 資本金 60 億円 (2008 年 2 月末時点)
 代表者 代表取締役社長 石井頼雄
 事業内容 百貨店業
 店舗数 16 店舗
 社員数 2,320 名 (2008 年 2 月末時点)
 Home Page <http://www.seibu.co.jp/>



株式会社 ミレニアムリテイリング (Millennium Retailing, Inc.)

本社所在地 郵便番号 102-0074 東京都千代田区九段南 2 丁目 1 番 30 号 (イタリア文化会館ビル)
 設立 1952 年 7 月 25 日
 資本金 377 億 33 百万円 (2008 年 2 月末時点)
 代表者 代表取締役社長 佐野和義
 株主 (株)セブン&アイ HLDGS.
 Home Page <http://www.millennium-retailing.co.jp/>

※ (株)ミレニアムリテイリングは MD 統括部と総務部の 2 部門が ISO14001 対象となっています。

次世代に続く豊かなくらしづくりに向けて 事業活動と一体となった 環境保全・社会貢献活動に取り組みます

株式会社 西武百貨店 代表取締役社長 石井頼雄

環境保全活動は企業の社会的責務

2008年は京都議定書で定められた約束を実行に移す目標期間の最初の年です。すべての企業は一層の具体的な活動と着地が求められています。

私どもは事業活動が地球規模の資源の枯渇、温暖化と深く関わっていることを企業市民の一員として深く受けとめ、企業の重要な責任のひとつとして環境保全活動を推進しています。また、百貨店の事業活動として消費者の皆さまの声に耳を澄ませながら、地域社会に密着した活動を行うなかで、地域貢献を果たしていくことが大切であると考えています。

西武百貨店は、1999年に百貨店業界で初めて環境マネジメントシステムISO14001規格認証を全店で取得して以来、環境保全活動を積極的に推進してまいりました。10年目に入った2008年は、低炭素社会の実現に向けた環境保全活動に、より傾注していく所存です。

環境活動の4つの柱

西武百貨店は2004年の環境目標改定以来、環境保全活動を「4つの柱」のもとに推進してきました。

第一の柱「お客さまとのコミュニケーション」

日々多くのお客さまと接点を持つ百貨店にとって、商品のご提供や簡易包装、催し物を通して、お客さまとともに環境について考え、お客さまの環境に配慮する生活のお手伝いをすることは重要な役割のひとつです。

2008年6月には、ミレニアムリテイリンググルー



プの一員として、横浜そごうとともに池袋本店と渋谷店を中心に、環境に配慮するライフスタイルをご提案する「スタイリッシュエコフェア」を開催しました。ファッション、インテリア、食品の領域で環境に配慮したライフスタイルを具体的な商品とともにご提案し、著名人がデザインした風呂敷を集めてのチャリティーオークションなどのイベントも開催しました。

簡易包装につきましては、お客さまのご理解とご協力により、2007年度の包装紙・手提袋の使用実績は2000年度比で61.1%、食品レジ袋は46.7%と削減が進んでいます。また、2000年よりオリジナルエコロジーバッグをご提案してまいりましたが、ギフトラッピングにご利用いただいた後も贈り先の方がエコバッグとしてご利用になれる「ラッピングエコバッ

西武百貨店 環境方針

基本理念

西武百貨店は、環境・社会・経済が一体となった事業活動を通じ、お客さまやお取引先、地域とともに、「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組みます。

行動指針

1. 私たち自身の環境保全活動に加え、自社の事業活動を通して、お客さまやお取引先の活動にも高い環境影響を及ぼすように努めます。
2. ①環境に配慮した品揃えや、イベント・セミナーなどを通じたお客さまとのコミュニケーション強化
②社会貢献活動などを通じて地域、社会とのコミュニケーション強化
③商品物の削減やリサイクルの推進、資源化防止対策などによる環境負荷の低減と環境保全の推進
④環境教育の継続による法令遵守とリスクマネジメントの徹底を活動の重点とし、仕組みや手続の継続的な改善に取り組みます。
3. 従業員に対する継続的な教育と普及活動を行い、一人ひとりが環境や社会問題に自発的に取り組むことにより、お客さまや地域社会に役立ち、信頼される企業を創出します。
4. 継続的な改善を設定し、一人ひとりが環境に向けた活動を実施しながら、結果の検証と改善を繰り返し、システムの向上を心がけます。

この環境方針は、従業員及び会社内外のすべての人に周知されるとともに、一般の方にも公開します。

2008年3月1日 株式会社 西武百貨店 代表取締役社長 石井頼雄



私にやさしい、地球にやさしい。

グ)を社員の提案により商品化。2008年5月に西武・そごうで販売を開始し、ご好評をいただいています。

第二の柱「社会・地域とのコミュニケーション」

地域美化活動の一環として、全店で店舗周辺の美化活動に取り組み、セブン&アイ HLDGS. の一斉清掃活動にも参加しています。

お客さまのご協力のもと、2004年から「盲導犬育成支援活動」も継続。店頭募金、社員募金制度に加え、労使基金を設立し、「盲導犬ふれあいキャンペーン」とともに実施しています。オリジナルエコバッグは売上高の5%を環境団体に寄付。お子さまの環境教育の一環であるどんぐりの苗木の植樹も、10年目を迎えました。

第三の柱「環境負荷の低減と環境保全活動」

地球温暖化対策、循環型社会推進の基本となる活動です。

リサイクル率の向上(+20.9%)により、実廃棄量は半減(2000年度比47.0%)しました。主たるエネルギーである電力消費は2000年度比91.7%と削減していますが、営業時間、営業面積当たりの発生量である「原単位」では、猛暑と大型店改装に伴う夜間工事などが影響し、比較可能な2003年度比111.1%、前年度比でも102.0%と増加しています。

2008年度も池袋本店で大規模工事を実施していますが、エネルギーセンターもあわせて更新して効率的なエネルギーの利用をめざし、CO₂の削減に努めます。工事に伴う廃棄物や車両管理、エネルギー管理、安全管理についても徹底してまいります。

第四の柱「順法とリスクマネジメント」

企業活動のCSRの基本として、順法とリスクマネジメントについては委員会を設置して体制を強化し、教育活動とあわせて全社で徹底。社員自らが実行し解決する風土を、さらに強化してまいります。

環境保全活動のさらなる徹底へ

2008年、ミレニアムリテイリンググループはグループ全体の環境保全活動を推進強化するために、環境推進部門を新たに組織に加えました。当グループが属するセブン&アイ HLDGS. は、2008年6月5日に「環境宣言」を発表し、企業の責務としての環境活動をグループ全体で徹底しています。

西武百貨店は「環境にやさしい、人にやさしい百貨店」として「結果にこだわった現場での実践」を徹底し、事業活動と一体となった環境保全・社会貢献活動により、次世代に続く豊かなくらしづくりに取り組んでまいります。お客さま、お取引先の皆さまのご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

環境推進の中期ビジョンと活動目標

1999年4月にISO14001を取得以降9年間、不適合の指摘を受けることなく、着実に活動を推進しています。これまでの環境推進活動の進捗と課題、お客さまや地域の方々の声を起点としながら、百貨店という事業特性を生かした中期的な環境への取り組みと活動目標を策定し、毎年見直しをしています。

重点取り組み項目		具体的プログラム	08年度目標	09年度目標	10年度目標	
4つの柱	9つの取り組み	環境商品選定と訴求強化	10品目の新規認定	10品目の新規認定	10品目の新規認定	
		環境商品の選定と提案	環境商材売上拡大	30億円	30億円	30億円
			エコバッグ売上拡大	1,400万円	1,470万円	1,544万円
		スマートラッピングの推進	包装紙・手提袋の削減	前年比 ▲0.2%	前年比 ▲0.3%	前年比 ▲0.3%
		環境イベントの展開・強化	環境イベントの開催	各店年間4回以上	各店年間4回以上	各店年間4回以上
お客さまとのコミュニケーションの強化	地域との共生	店舗外周清掃の実施	各店月2回以上	各店月2回以上	各店月2回以上	
		地域コミュニケーションの実施	各店半期1回以上	各店半期1回以上	各店半期1回以上	
	社会との共生 (盲導犬育成支援活動)	盲導犬育成事業支援	募金額前年増	募金額前年増	募金額前年増	
		盲導犬ふれあいキャンペーン	各店半期1回の開催	各店半期1回の開催	各店半期1回の開催	
環境負荷の低減と環境保全活動の推進	「地球温暖化」対策	電力使用量の削減	※1 前年比+0.1%	前年比 ▲1%	前年比 ▲1%	
		温室効果ガス排出量の削減	※2 前年比+0.1%	前年比 ▲1%	前年比 ▲1%	
		社用車の低公害車切替	100%を維持	100%を維持	100%を維持	
		納品代行システムの促進	納品代行および店舗納品代行の取り組み促進			
	「循環型社会」の推進	廃棄物量の削減	前年比 ▲1.6%	前年比 ▲4.1%	前年比 ▲4.2%	
		リサイクル率の向上	61%	62%	63%	
	「省資源」の推進	水資源使用量の削減	前年比 ▲1.1%	前年比 ▲1%	前年比 ▲1%	
		事務用紙使用量の削減	前年比 ▲2.2%	前年比 ▲0.3%	前年比 ▲0.3%	
	コンプライアンスとリスクマネジメント	順法とリスクマネジメントの強化	フロン管理の徹底	●故障・改装時に特定フロン使用機器を入替 ●フロン使用機器廃棄時に適正なフロン引渡し ●業務用冷凍冷蔵機器の日常温度管理を徹底		
			PCB管理の徹底	●保管、管理の徹底 ●行政処理計画にもとづき適正処理を実施(PCB廃棄物保管店舗 池袋本店・札幌店・沼津店)		
薬品管理の徹底			●保管、取扱い手順の順守 ●業務委託先を含む安全教育の実施			
テナント教育(環境教育)			●テナント従業員への環境教育・指導 ●新規出店テナントの環境対応状況点検			

※1 池袋本店、所沢店、札幌店の改装に伴う照度増等の影響を見込む。 ※2 CO₂発生は電力使用によるものが大きいいため、電力増の影響を勘案。

中期計画は「4つの柱と9つの取り組み」を基本的な枠組みとして目的、目標が作られています。

1 お客さまや社会・地域の方々の声を起点に商品や環境イベントを通じて環境問題に取り組んでいきます。

一般消費者の方々と接点を持つ小売業として、また地域に根ざす地元密着型企业として、「お客さまとのコミュニケーション」「社会・地域とのコミュニケーション」をより強化します。具体的には、環境に配慮したライフスタイルの提案やイベントの開催、「外周清掃」「盲導犬育成支援」などの社会貢献活動を積極的に行います。

2 地球温暖化対策や、循環型社会の推進に向けた従業員一人ひとりの地道な取り組みを継続します。

政府の国民運動「チームマイナス6%」の一員として省エネ・省資源活動に積極的に取り組み、また日本百貨店協会のメンバーとして自主行動計画の達成に向けて取り組んでいます。「スマートラッピング」やマイバッグ持参運動などのPRも、ホームページなどを活用しながら積極的に推進していきます。

3 順法とリスクマネジメントの仕組みについて、一層の徹底を図っていきます。

従業員一人ひとりの業務がどのように環境保全に関わっているか、環境教育を通じて自覚を促し、危機管理についての実践力を高めていきます。一例として、緊急事態を想定して対応手順書を作成し、備品や警報装置などの日常点検に加え、半年ごとに実地訓練を実施し、対応手順の有効性も確認しています。

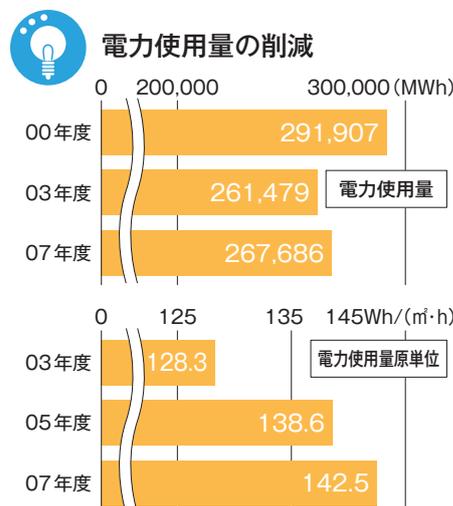
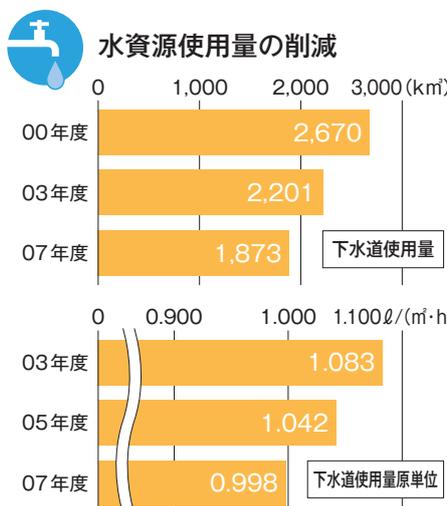
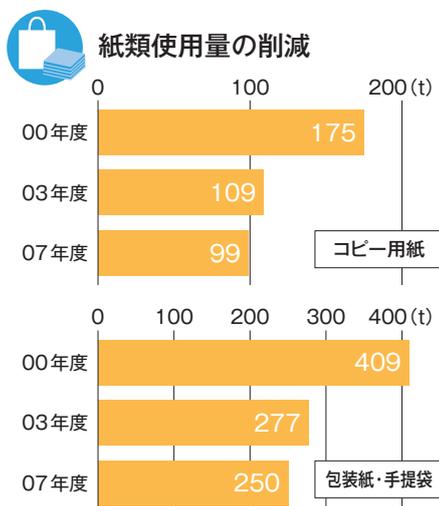
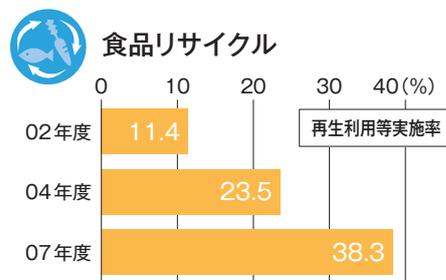
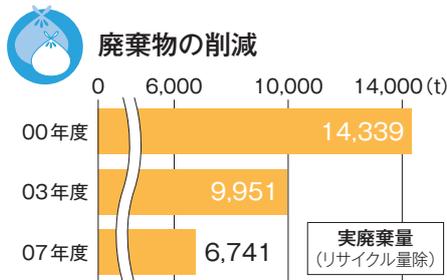
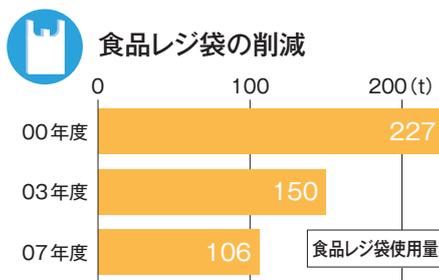
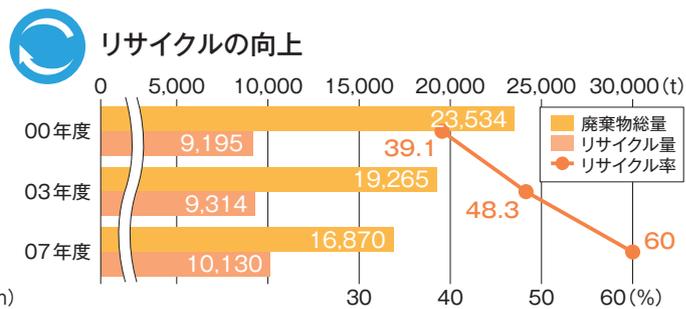
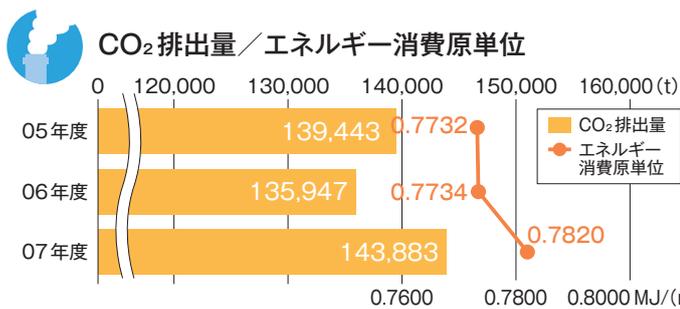
環境目標達成の進捗

西武百貨店では1990年代から環境問題に取り組み、1999年にISO14001認証を取得して以来、店舗別に環境目標を設定し、全社で環境保全活動に取り組んできました。その間、東戸塚店、岡崎店の新規開店、8店舗の大型リニューアルおよび9店舗閉店といった与件のなかで、大きな活動の成果をあげてきました。

廃棄物発生量を例にとると、2007年度の廃棄物総量は2000年度比71.7%と削減でき、またリサイクル率が向上(同+20.9%)したことにより、実廃棄量は2000年度比47.0%と半減しました。紙類の使用量も、コピー用紙が同56.7%、包装紙・手提袋同

61.1%と大幅に減少しています。

電力使用量、下水道使用量も、2000年度と比べ91.7%、70.1%と削減しました。しかし、営業面積・営業時間当たり発生量である「原単位」では、比較可能な2003年度比で下水道使用量は92.2%と、年間1%削減目標を達成していますが、電力使用量は、近年の猛暑の影響や大型改装に伴う夜間工事などの影響で111.1%、前年比でも102.0%と増加し、その結果CO₂排出量も増大しています。2008年度も引き続き、こまめな消灯、適正温度管理など、細かな努力の積み上げで、目標達成を目指します。



* CO₂排出量は、排出係数の見直しを行い過去の数値も再計算しています。

環境・社会活動の歩み

1990年代の初めから、いち早く環境活動に取り組んできました。
2002年以降は様々な社会貢献活動にも取り組んでいます。

1990年～1998年 ▶▶▶ 1999年 ▶▶▶ 2000年 ▶▶▶ 2001年 ▶▶▶ 2002年 ▶▶▶ 2003年

環境活動

「環境方針」

- 1998年9月/「環境方針」制定(第1版)
- 4月/西武百貨店「環境記念日」(4月9日)制定
- 5月/「環境方針」改訂(第2版、経済・社会視)
- 6月/ミレニア

ISO14001 規格

- 4月/規格認証取得(4月9日)
- 4月/第1回登録更新

● 1991年8月/「西武百貨店エコロジーハンドブック」発行

「環境活動報告書」

- 9月/2000年版発行
- 6月/2002年版発行
- 9月/
- 8月/2001年版発行

社内の取り組み

- 1998年3月/社内報に環境活動についての連載開始
- 1998年11月/環境活動アイキャッチマークを社内募集
- 6月/「eco包装アイデア」社内コンテスト実施

再生品使用

- 1990年7月/簡易包装の取り組み開始。包装紙・手提袋・名刺などの社内用用品に再生紙使用開始
- 1998年8月/女性社員の制服に再生ベトナム素材を使用

廃棄物削減

- 1991年5月/ごみの分別回収開始
- 10月/東戸塚店生ごみ処理機導入(ハートビル法モデル店)
- 1993年8月/納品代行システムスタート
- 9月/岡崎店生ごみ処理機導入(ハートビル法モデル店)
- 1995年3月/関東圏10店舗ハンガー納品システム導入
- 11月/池袋本店に生ごみ処理機7台導入
- 1998年/池袋本店外気冷房装置導入
- 8月/秋田店に生ごみ処理機2台導入

環境商品

- 1992年8月/独自の「環境商品基準」にもとづいた環境商品にアイキャッチマーク(エコザウルス)表示
- 6月/西武のおすすめする環境配慮商品の表示
- 6月/「西武オリジナルエコロジーバッグ」販売開始
- 9月/「保冷バッグ」導入
- 4月/「エコバッグ」収益金の一部を地球環境基金に寄付(第1回)
- 2月/「商品適正表示小委員会」設置
- 4月/「エコバッグ」収益金の一部を寄付(第2回)

環境教育支援

- 1998年9月/「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」(池袋本店にてどんぐり配布)スタート
- 10月/「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹(第1回)
- 12月/敬宮愛子さまご誕生記念「子供たちの未来の森」苗木配布
- 6月/こどもエコクラブ窓口開設(池袋本店、船)
- 10月/植樹(第2回)
- 10

社外での取り組み

- 1998年6月/「エコライフフェア98」に出展
- 6月/「エコライフフェア99」に出展
- 6月/温室効果
- 6月/「エコライフフェア2000」に出展
- 12月/「エコプロダクツ2001」に出展
- 10月/「エコプロダクツ2002」に出展

社会活動

「みんなで集めようキャンペーン」で財ジョイセフに寄付

- 3月/第1回
- 3月/第2回

盲導犬

人事・制度など

- 1995年4月/ファミリー・ケア・ダイヤル開設
- 6月/ハートフルアドバイザー資格取得開始
- 1995年9月/成果主義にもとづく新人事制度、目標管理制度を導入
- 6月/メンタルヘルスカウンセリング導入

西武百貨店の事業活動と環境保全活動

百貨店の営業活動では、資源やエネルギーの消費とともに、ごみや温室効果ガスなどの排出が伴います。私たちは、こうした環境への負担を減らすために、さまざまな場面で環境保全活動に取り組んでいます。

INPUT 投入



環境に配慮した商品提案の推進

(25～28ページ参照)

- 1 資源循環野菜の販売
- 2 環境に配慮した商品の開発・販売
- 3 法人外商部の環境ビジネス

順法とリスクマネジメントの強化

- 4 フロン使用機器のチェック…冷凍冷蔵ショーケースの温度管理を徹底、フロン漏洩防止と安全稼働に努める。

地域社会との共生

- 5 外周清掃…社員たちの手で定期的に周辺地域の清掃実施。
- 6 店内エコ見学会…地域の方々が身近に学べる環境教育の場として、店内の環境商品や施設をご案内。

廃棄物の削減とリサイクルの向上

- 7 再生資源を使用した売場ツール…ブライスカード入れやポスターなど。
- 8 お客さま用分別ごみ箱
- 9 百貨店統一ハンガー
- 10 エコ素材の制服…女性社員の制服の素材に再生PETを使用。
- 11 化粧びんのリサイクル…資生堂と協力。店頭にお持ちいただいた化粧びんは、ガラスびんの原料に再利用。
- 12 容器回収…食品トレー、ペットボトル、牛乳パックなどの回収ボックス設置（一部店舗）。

- 13 社員用分別ごみ箱
- 14 リターナブルコンテナ納品…納品後は折りたたんでメーカーへ。繰り返し使用して段ボールを減らす。
- 15 ハンガー納品…メーカーから売場までハンガーに吊るして輸送。段ボールやテープを使用しない。
- 16 エコステーション…店舗で発生したごみを分別・保管し、各種リサイクル機器で中間処理も行う（写真は池袋本店生ごみ処理機）。



OUTPUT 排出

CO ₂ 143,883 [t]* ⁴	容器包装 836 [t]* ³
排水 1,873 [km ³]	廃棄物 6,741 [t]* ⁵

資源
リサイクル
10,130 [t]

段ボール・発泡スチロールなど再資源化……………	8,993 [t]
生ごみの再生利用 ……………	1,137 [t]



紙類使用量の削減

- 17** エコ包装…お客さまのご希望をうかがいながらエコ包装をすすめ、不要な包装紙や紙製手提袋の使用を控える。
- 18** リサイクルボックス…片面使用済みのコピー用紙や新聞・雑誌などを分別してリサイクル。
- 19** コピー使用量の管理…両面コピーを原則とし、部署ごとに枚数も制限。用紙は植林木パルプ、古紙パルプを使用。

水資源使用量の削減

- 20** 消音装置設置と洗面所の節水

電力使用量の削減

- 21** 2UP3DOWN運動…従業員は上りは2階分、下りは3階分まで階段を利用。
- 22** こまめな消灯
- 23** 外気冷房システム

車両による環境負荷低減

- 24** 納品代行システム…納品商品を納品代行会社の倉庫に一括集荷し、納品便を効率化して店舗への出入り車両を抑制。
- 25** 営業時間外納品…夜間や早朝の納品で、交通渋滞による大気汚染・騒音発生を抑制。

重油ボイラーの適正管理

- 26** ボイラーのチェック…使用基準を明確化し操作者の定期訓練を実施。

*1 発熱量換算係数
 電力：9.970 [MJ/kWh]
 環境報告ガイドライン 2007年版
 ガス：各ガス供給業者が定める発熱量
 13A：46.04655 [MJ/Nm³]
 6C：20.93025 [MJ/Nm³]
 重油：39.1 [MJ/ℓ] (A重油)
 エネルギー源別標準発熱量表の改訂について
 (2002年2月 資源エネルギー庁総合政策課)
 ガソリン：34.6 [MJ/ℓ]
 エネルギー源別標準発熱量表の改訂について
 (2002年2月 資源エネルギー庁総合政策課)
 *2 社用車のガソリン使用量
 *3 財日本容器包装リサイクル協会
 2007年度再商品化委託契約に係る容器包装使用量
 *4 CO₂排出量
 事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイド
 ライン (2005年7月 環境省地球環境局)
 *5 資源リサイクル分を除く実廃棄量

※数値はすべて2007年度の年間合計値です。

2007年度の 環境活動結果

環境中期目標

「4つの柱と9つの取り組み」について、
2007年度の実績と達成度をまとめました。

2007年度の環境目的・目標は、数値目標を全項目で達成することができました。

前年未達成だった地球温暖化対策の「低公害車導入率」も、100%導入することができました。今後も100%を維持しながら、「アイドリングストップ」「計画的運行による高効率な走行」などによってCO₂の削減を図っていきます。

9月下旬から販売を開始した「おかいものクマエコバッグ」が好評で、前年に対し+29.8%と大きく売上を伸ばしています。また、改装計画などで期中増加傾向だったコピー用紙も、マネジメントを強化し、前年比96.7%と削減しました。

定着している外周清掃は、全店で817回、延べ参加人数11,276人に及び、6月と10月にはセブン&アイHLDGS.グループ全体の一斉清掃（12,621社、71,136人で実施し、約145トンのごみを回収）に全店で1,860名が参加しました。

廃棄物総量は、渋谷店、所沢店の大型リニューアル工事などの増加要素はありましたが、各店において廃棄物のマネジメント強化に努め、目標比98.5%、前年比98.5%と削減することができました。

「循環型社会の推進」では、「リサイクル率の向上」も目標比+5.5%、前年比+4.6%と大きく上回りました。

4つの柱	9つの取り組み		
1 お客さまとの コミュニケーション の強化	① 環境商品の選定と提案	環境商品選定と訴求強化	
		環境商材売上拡大	
		エコバッグ売上拡大	
2 社会・地域との コミュニケーション の強化	② スマートラッピングの推進	包装紙・手提袋の削減※	
		③ 環境イベントの展開・強化	環境イベントの開催
	④ 地域との共生	店舗外周清掃の実施	
地域コミュニケーションの実施			
3 環境負荷の 低減と 環境保全活動の 推進	⑤ 社会との共生 (盲導犬育成支援活動)	盲導犬育成事業支援	
		その他、寄付、ボランティアなどの社会活動	
4 コンプライアンス と リスクマネジメント	⑥ 「地球温暖化」対策	電力使用量の削減※	
		電力使用量原単位 使用量	
管理活動	⑦ 「循環型社会」の推進	温室効果ガス排出量の削減※	
		社用車の低公害車切替	社用車の低公害車導入率 低公害車数
⑧ 省資源の推進	⑨ 順法と リスクマネジメントの強化	重油ボイラーの適正管理	
		廃棄物量の削減※	実廃棄量 廃棄物総量
		リサイクル率の向上※	リサイクル率 リサイクル量
		事務用紙納品量削減※	
		水資源使用量の削減※	下水道使用量原単位 使用量
		フロン管理の徹底	
		PCB管理の徹底	
		薬品管理の徹底	
		テナント管理(環境教育)	
		環境マネジメントシステム運用	
		環境情報開示	
		環境教育	

※一部の目標値は、下期目標見直しにより修正しています。

達成度：◎……大幅達成(目標に対して20%以上の超過達成) ●……達成 ▲……やや未達成(目標に対して20%以下の未達成) ×……未達成(目標に対して20%を超える未達成)

実績(目標比、前年比)	達成度	具体的な取り組みと成果
14品目(目標比140%、前年比127.3%)	◎	●本年度、新たに14品目の環境商品を選定し、合計97品目が選定されています。これらは、お客さまにわかりやすいように表示しています。
34.8億円(目標比116%、前年比78.4%)	●	●法人外商部の環境商材の売上高は34.8億円で、企業の環境商材に対するニーズは高まっているものの単価のダウン、リサイクル素材によるユニフォームの受注減等により前年差▲9.6億円となりました。
13.5百万円(目標比135%、前年比129.8%)	◎	●2007年9月下旬に販売を開始した「おかいものクマエコバッグ」が好評で、13.5百万円と前年から大きく売上を伸ばし、環境意識の高まりとともに3年連続で2ケタ伸長となりました。
250,415kg(目標比100%、前年比99.9%)	●	●「エコ包装お勧めトークシート」をレジカウンターや「販売基本ルール」(個人携帯マニュアル)でいつでも確認できるようにし、新規入店者研修でも徹底を図っています。 ●「包まないという地球へのおもいやり」メッセージシールをレジカウンターに装備。簡易包装や手提袋のおまどめを積極的にお客さまにお願いし、ご協力いただきました。
94回(目標比144.6%、前年比120.5%)	◎	●全店で4月と6月に「ライトダウン」(ブラックアウト)を実施。7～8月には「打ち水大作戦」を実施しました。その他、各地域、行政、NPO等の方々と連動し、計94回の環境・社会貢献イベントを開催しました。
817回(目標比102%、前年比103.3%)	●	●全店で月2回以上の目標を立て、計817回、延べ人数11,276人で実施しました。6月と10月にはセブン&アイHLDGSグループ一斉清掃に1,860人が参加しました。
226回(目標比124.9%、前年比107.1%)	◎	●全店で半年に1回以上の目標に対し、計226回の地域とのコミュニケーションを実施しました。 ●環境に対するキャンペーンやフェア、また施設見学や講師依頼等がありました。
<ul style="list-style-type: none"> ●年々お客さまの認知度とご理解も深まり、2007年の店頭募金額はついに1千万円の大会にのり、10,396千円となりました。 ●2005年6月に発足した社内募金「西武ワンコイン倶楽部」は1年間で3,404人の参加があり8,250千円に達し、全国の盲導犬育成団体に寄付をさせていただきました。 ●毎年2回ずつ全店で開催している盲導犬ふれあいキャンペーンは、すっかり地元で定着し、毎回楽しみにご来場いただけるお客さまも増えています。 		
<ul style="list-style-type: none"> ●労使共催で「みんなで集めようキャンペーン」を実施し、古切手9,741g、使用済みプリペイドカード130,489枚を回収し、(財)ジョイセブに寄付しました。これらは発展途上国で寄生虫予防や栄養改善など地域生活改善支援に役立てられます。プルタブは123kgを回収、一定量に達した段階で車椅子の寄付に役立てられます。 ●エコバッグの収益金の一部を「地球環境基金」に寄付しました。「子どもエコクラブ」の窓口や植樹ボランティアも継続しています。 		
142.52Wh/(㎡・h)((目標比99.3%、前年比102.5%)	●	<ul style="list-style-type: none"> ●店舗改装による夜間工事、照度増等により、前年増とはなりませんが、目標は達成しました。 ●管理標準に基づいた運用と日割使用量目標を全店で設定し、きめ細やかな使用量管理を行いました。 ●ワークスケジュールに基づいた計画的な時間外送電・2UP3DOWN等の省エネオペレーションを継続するとともに定期的に実施状況を確認しました。
267,685,838kWh(目標比99.1%、前年比102.0%)		
●電力会社の一部切替等による排出係数変更を行い温室効果ガス排出量は143,883t(前年比105.8%)と増加しましたが、排出係数の影響を受けないエネルギー消費量の増加は101.7%でした。		
100%(目標比100%、前年比104.6%)	●	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車使用管理計画書(自動車NOx/PM法)に基づいて「低公害車導入」「車両走行量削減」「適正運転」の取り組みを行い、その結果を実績報告書にまとめ、東京都、大阪府へ提出しました。 ●低公害車数は248台となり低公害車導入率100%となりました。
248台(目標比100%、前年比104.6%)		
●チェックシートに基づき、重油ボイラー管理状況と管理標準に基づく運用状況を確認しました。		
6,740,563kg(目標比91.3%、前年比92.3%)	●	<ul style="list-style-type: none"> ●全店で廃棄物の適正処理状況を確認するため、廃棄物ルートの実査を行っています。実査の結果、処理状況に問題はありませんでした。 ●生ごみ処理機からできたコンポスト(堆肥)を使用し生産された農産物を店頭で販売するという資源循環システムが、池袋本店と秋田店で継続的に稼働中です。 ●再商品化委託料の算出根拠となる2007年度の使用量は、プラスチック製容器包装289t(前年差▲19t)、紙製容器包装547t(前年差+41t)でした。 ●回収処理済み商品券22.3tをトイレトーパーにリサイクルしました。
16,870,466kg(目標比98.5%、前年比98.5%)		
60.0%(目標比105.5%、前年比104.6%)		
10,129,903kg(目標比104%、前年比103.1%)	●	●店舗大型改装の計画書等使用量は増加傾向でしたが、両面コピー、集約コピー等マネジメントを強化し前年よりも削減をはかりました。
99,286kg(目標比97.7%、前年比96.7%)	●	●店舗改装に伴う食品売場の拡大により、水の使用量が増加しました。 ●全店の社員食堂で使用量目標を設定し毎日使用量を点検する等、目標の達成状況を確認しました。 ●トイレの擬音装置の電池切れをごまめに点検し、活用を促進しました。
0.998ℓ/(㎡・h)(目標比98.5%、前年比101.7%)	●	
1,872,628㎡(目標比98.3%、前年比101.3%)		
<ul style="list-style-type: none"> ●冷凍(冷蔵)庫は1日2回(10時、15時)の庫内温度点検を継続実施しています。 ●環境法規制順守状況チェックシートによるフロン類の適正引渡し状況確認を10月に実施し、特に問題はありませんでした。 		
<ul style="list-style-type: none"> ●6月に「PCB廃棄物保管管理及び処分状況届出書」の行政提出確認を実施しました(池袋本店、沼津店、札幌店)。 ●PCB廃棄物の適正処理に向けて、日本環境衛生安全事業(株)へ処理委託早期登録を行っています。 		
●運用管理等について規定を見直し、特定教育及び緊急事態対応手順テストを業務委託先従業員を含めて実施しました。また、化学薬品の保管場所や使用場所においても間違いが生じないように色分け表示を徹底しました。		
<ul style="list-style-type: none"> ●本部で行われる月例のテナント部・課長会で教育を実施し、各店舗ではその部・課長が各テナント責任者への指導にあたっています。 ●改装時等のテナント説明会(特に新規出店者)では、当社の環境活動をご理解いただけるよう、環境関連研修を実施しています。 		
●2008年1月実施のISO14001更新審査において改善指導事項はありませんでした。		
<ul style="list-style-type: none"> ●各店舗の店長(部長)が地域行政等を訪問し、当社へのご要望を伺うなど、環境・社会活動報告書を用いたコミュニケーションを行いました。 ●お取引先社員やテナント従業員、業務委託先従業員の方々に対しリーフレットを活用して当社の環境教育を実施し、また、ご希望のお客さまにも積極的に配布し、情報開示に努めました。 		
●新たに3名が内部環境監査員資格を取得し、内部環境監査員資格保有者は合計93名となりました。		

2007年度 店舗の環境目標達成状況

主要な取り組み項目の環境目標達成状況を、店舗ごとにまとめました。

店舗名 売場面積 (㎡)	達成度	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量	<ul style="list-style-type: none"> ● 物産展、バーゲンセール強化、モチベーションギフト需要増により包装紙・手提袋使用量増加 ● 外気温上昇による冷房用冷却水増加、洗浄機付き便座設置台数増による水使用量増加
		年間総量	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
池袋本店 90,777	達成度	○	○	△	△	○	
	年間総量	1,615 t	3,001 t	99.78 t	533,567 ㎡	64,283 MWh	
	参考指標	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
	参考指標	11.1 kg	65 %	426 g	1.65 ℓ/(㎡h)	199.39 Wh/(㎡h)	
渋谷店 43,815	達成度	△	△	×	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 店舗構造改善で食品領域拡大による厨芥類増のため、実廃棄量、リサイクル量が未達成 ● 店舗構造改善による手提袋等の使用量増
	年間総量	525 t	643 t	16.83 t	157,179 ㎡	30,282 MWh	
	参考指標	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
	参考指標	9.6 kg	55 %	260.1 g	0.947 ℓ/(㎡h)	183.47 Wh/(㎡h)	
有楽町店 15,517	達成度	○	△	△	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物総量の減少に伴いリサイクル量も減（特にハンガー納品、リターナブルBOX強化による段ボール量削減が大） ● 前年構造改善時に手提袋使用売場面積拡大のため手提袋の使用量増
	年間総量	76 t	167 t	5.31 t	33,609 ㎡	7,175 MWh	
	参考指標	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
	参考指標	4.3 kg	68.7 %	410 g	0.56 ℓ/(㎡h)	120.8 Wh/(㎡h)	
所沢店 25,375	達成度	○	○	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造改善によるクリアランスセール、グランドオープン等により手提袋等の使用量増加 ● 構造改善工事の時間外送電、空調及び外気温上昇による電気、水道使用量増加
	年間総量	446 t	722 t	16.76 t	98,511 ㎡	13,490 MWh	
	参考指標	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
	参考指標	20.1 kg	61.8 %	312.8 g	1.081 ℓ/(㎡h)	147.98 Wh/(㎡h)	
船橋店 34,754	達成度	○	△	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物総量の減少に伴いリサイクル量も減（特にハンガー納品、リターナブルBOX強化による段ボール量削減が大）
	年間総量	380 t	370 t	14.93 t	174,087 ㎡	21,079 MWh	
	参考指標	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
	参考指標	14.5 kg	49.4 %	305.8 g	1.14 ℓ/(㎡h)	137.31 Wh/(㎡h)	
筑波店 24,992	達成度	○	△	○	△	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物総量を削減し、リサイクル率は向上させるも、目標値までは届かず ● 食品、レストラン来店顧客増及び食品厨房1軒新規出店による水使用量増加
	年間総量	139 t	325 t	13.28 t	55,217 ㎡	9,430 MWh	
	参考指標	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
	参考指標	7.2 kg	70 %	354.7 g	0.635 ℓ/(㎡h)	108.5 Wh/(㎡h)	
東戸塚店 34,688	達成度	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物総量を前年比71%まで削減し、リサイクル率は2.1%向上させ94.6%となった
	年間総量	73 t	1,273 t	8.85 t	115,138 ㎡	17,901 MWh	
	参考指標	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
	参考指標	3.5 kg	94.6 %	94.7 g	0.89 ℓ/(㎡h)	138.42 Wh/(㎡h)	
高槻店 39,676	達成度	○	○	○	△	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 外気温上昇による冷房用冷却水使用量増加
	年間総量	614 t	828 t	8.55 t	156,856 ㎡	21,228 MWh	
	参考指標	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位	
	参考指標	27.5 kg	57.4 %	110.5 g	1.048 ℓ/(㎡h)	141.88 Wh/(㎡h)	

表の見方 目標達成度 ●各サイトの2007年度目標に対する実績を表します。

- 目標を達成した(目標比100%以上)
 △ 目標に対して20%以下の未達成
 × 目標に対して20%を超える未達成

※売場面積は営業総面積です。

店舗名 売場面積(㎡)	達成度	実廃棄量	リサイクル量	包装紙・手提袋納品量	下水道使用量	電力使用量	備考
		年間総量	年間総量	年間総量	年間総量	年間総量	
八尾店 40,529	達成度	△	○	○	○	○	● レストラン1店舗増により廃棄物総量が増えたが、リサイクル率では目標達成
	年間総量	1,040 t	596 t	8.98 t	145,687 ㎡	18,303 MWh	
	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位		
	参考指標	54.2 kg	36.4 %	179.6 g	0.984 ℓ/(㎡h)	123.6 Wh/(㎡h)	
札幌店 29,342	達成度	○	○	○	○	△	● 外気温高による冷房用電力使用量の増加 ● 夜間営業投資工事実施による電力使用量増
	年間総量	201 t	257 t	5.04 t	59,365 ㎡	12,824 MWh	
	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位		
	参考指標	15.1 kg	56.1 %	189.2 g	0.554 ℓ/(㎡h)	119.77 Wh/(㎡h)	
福井店 25,881	達成度	○	△	○	○	○	● 廃棄物総量の減少に伴いリサイクル量も減(特にハンガー納品、リターナブルBOX強化による段ボール量削減が大)
	年間総量	315 t	208 t	10.18 t	68,731 ㎡	10,227 MWh	
	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位		
	参考指標	19.7 kg	39.7 %	331.3 g	0.757 ℓ/(㎡h)	112.67 Wh/(㎡h)	
秋田店 12,340	達成度	○	△	△	○	○	● 廃棄物総量の減少に伴いリサイクル量(率)も減(特にハンガー納品、リターナブルBOX強化による段ボール量削減が大) ● 新規食品催事増、ギフトセンターお持帰り増による手提袋、包装紙の増加
	年間総量	209 t	413 t	8.12 t	46,406 ㎡	6,755 MWh	
	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位		
	参考指標	22.1 kg	66.4 %	305.2 g	0.78 ℓ/(㎡h)	113.56 Wh/(㎡h)	
沼津店 9,712	達成度	△	△	○	○	△	● 新規食品催事増に伴い廃棄物総量増加及びリサイクル率の低下 ● 天候と件により冷暖房用電力使用量が増加
	年間総量	82 t	144 t	10.35 t	55,020 ㎡	4,208 MWh	
	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位		
	参考指標	8.4 kg	63.7 %	603.5 g	1.567 ℓ/(㎡h)	119.85 Wh/(㎡h)	
大津店 28,073	達成度	○	○	△	○	○	● 新規食品催事増による手提袋、包装紙使用増
	年間総量	645 t	669 t	10.37 t	81,307 ㎡	14,700 MWh	
	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位		
	参考指標	44.1 kg	50.9 %	250.8 g	0.753 ℓ/(㎡h)	136.16 Wh/(㎡h)	
旭川店 30,360	達成度	△	△	○	○	○	● 店舗改装による不用什器等廃棄物総量増加とリサイクル率の悪化
	年間総量	269 t	254 t	7.09 t	52,048 ㎡	9,872 MWh	
	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位		
	参考指標	26.5 kg	48.5 %	276 g	0.497 ℓ/(㎡h)	94.24 Wh/(㎡h)	
岡崎店 16,866	達成度	○	○	○	△	△	● 廃棄物総量減少、リサイクル率増加で、共に目標達成 ● 天候と件、建物と件により夏・冬共に冷暖房用電力使用量が増加
	年間総量	111 t	260 t	5.90 t	39,900 ㎡	5,892 MWh	
	売上百万当り	リサイクル率	百客当り	原単位	原単位		
	参考指標	10.8 kg	70 %	228.6 g	0.615 ℓ/(㎡h)	90.86 Wh/(㎡h)	

2007年度 環境会計

環境保全への取り組みを、環境保全活動のコストと効果で定量的に評価しました。

環境目的・目標		主な取り組み内容	
お客さまとのコミュニケーション強化	環境に配慮した商品提案の推進	環境商材売上拡大	・包材・資材・環境機器の拡販
		エコバッグ売上拡大	・基準品揃えと発注状況の週次・月次点検 ・オリジナル「おかいものクマエコバッグ」の開発・発売
	小計		
地域、社会とのコミュニケーション強化	地域・社会との共生	地域コミュニケーションの実施	・クマちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン（隔月） ・地域環境フェアへの出展、環境講座の実施、店内見学会の開催 ・エコバッグ収益金の一部寄付
			小計
環境負荷の低減と環境保全活動の推進	地球温暖化対策	電力使用量の削減	・空調機器改修・整備（池袋本店冷却塔設備、渋谷店エアコン他） ・照明器具更新（筑波店エスカレーター天井、東戸塚店エレベーターホール他） ・管理標準に基づいた運用 ・地球温暖化防止キャンペーンへの参加 ・ワークスケジュールに基づいた計画的な時間外送電 ・2UP3DOWN、節電プレートによるこまめな消灯 ・パソコンスタンバイの励行
		重油ボイラーの適正管理	・管理標準に基づいた運転と管理
	循環型社会の推進	廃棄物の削減	・コンポスト機整備改修（池袋本店） ・分別の徹底と適正計量 ・リターナブルコンテナ、百貨店統一ハンガー、ハンガー納品の利用拡大 ・生ごみの水切り徹底、社員食堂での食べ残し削減
		容器包装リサイクル	・容器包装リサイクル法対応 ・容器回収（牛乳パック、ペットボトル、トレー）
		製品・商品等のリサイクル	・回収処理済み商品券のリサイクル（溶解処理し、再生紙として再利用）
	省資源の推進	コピー用紙納品量削減	・両面コピー、集約コピー、プリンターの集約印刷 ・片面使用済み用紙の再利用
		包装紙・手提袋納品量削減	・ご用途に合わせたスマートラッピングの推進 ・簡易包装推進シール活用によるノー包装推進 ・ポリ手提袋利用による中間包装材の削減
		下水道使用量の削減	・社員食堂残飯流し場の流量適正化 ・トイレ節水システムの活用 ・トイレ擬音装置の活用
	小計		
	コンプライアンスとリスクマネジメント	順法意識の高揚と危機管理手法の強化	フロン管理強化
小計			
管理活動	環境マネジメントシステム運用	・環境管理委員会運営 ・ISO14001定期審査、更新審査 ・内部環境監査 ・人件費	
	環境情報開示	・環境・社会活動報告書の発行 ・エコガイドリーフレットの作成・配布	
	環境教育	・内部環境監査員研修、スキルアップ研修 ・eラーニングによる全社員教育	
	小計		
環境損傷			
合計			

(単位:百万円)

2007年度				環境保全効果
環境保全コスト			経済効果	
投資	経費	総額		
0	0	0	516.1	
0	0.3	0.3	3.4	・オリジナルエコロジーバッグの販売個数は15,600個(前年比153%)に達し、レジ袋削減運動に貢献することができました。
0	0.3	0.3	519.5	
0	4.3	4.3	0.5	・池袋本店「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」も10周年を迎え、2007年10月の記念イベント「キッズエコライフフェア」では延べ3,000名のお客さまがご来店、子どもたちに環境を考えてもらう機会となりました。 ・また、10月28日には社員がボランティアで約1,000本のどんぐりの苗木の植樹を行いました。 ・4月9日には2006年度収益金の約5%を地球環境基金に寄付しました。
0	4.3	4.3	0.5	
76.3	17.4	93.7	0	・空調機器更新・整備により店内空調の効率を改善しました。 ・老化した照明器具を省エネ型に更新しました。 ・管理標準に基づいた運用と日割使用量目標を全店で設定し、きめ細かな使用量管理を行うことにより目標内運用を達成しました。(目標差▲2,453,109kWh) ・環境省:ライトダウンキャンペーン、日本百貨店協会:夏季冷房温度緩和等に協力し、地球温暖化防止を呼びかけました。
0	0	0	0	・チェックシートに基づき、重油ボイラー管理状況と管理標準に基づく運用状況を確認しました。
8.4	655.9	664.3	0.1	・こまめな努力により廃棄物実廃棄量を564t削減しました。
0	14.2	14.2	0	・2006年度に使用した紙製容器包装556t、プラスチック製容器包装311tにつき2007年度に支払った再商品化委託料です。
0	0.4	0.4	0	・お客さまがご使用になった商品券は22tにのぼり、会計処理の後、溶解処理して再生紙となっています。
0	0	0	0.5	・年間に使用している約2,500万枚のコピー用紙を約100万枚削減しました。
0	0.1	0.1	3.5	・簡易包装おすすめシールを46千枚使用し、また百貨店にふさわしい適正包装「スマートラッピング」について社員で知恵を出し合い、お客さまにもご理解いただき、包装用品全体で3.5百万円を削減することができました。
0	0	0	0	・日割使用量目標を全店で設定し、きめ細かな使用量管理を行うことにより目標内運用を達成しました。(目標差▲32,447m³)
84.7	688.1	772.8	4.1	
119.6	8.2	127.9	0	・チェックシートに基づき、フロン使用機器廃棄時のフロン適正引き渡し状況を確認しました。 ・1日2回(10時、15時)の庫内温度点検を行いました。
119.6	8.2	127.9	0	
0	51.1	51.1	0	・本部・各店舗連動の環境マネジメント活動により、2008年1月のISO14001認証更新審査で改善指摘事項はありませんでした。
0	5.9	5.9	0	・環境・社会活動報告書7,200部、お客さま配布用パンフレット40,000部を作成、配布。当社の活動への認識を深めていただきました。
0	1.6	1.6	0	・本社員、パート社員、お取引先従業員計約2万名に環境教育を行いました。 ・新任事務局担当者や、認定済み内部環境監査員へのスキルアップ研修を行いました。
0	58.6	58.6	0	
0	0	0	0	
204.3	759.4	963.8	524.1	

※小数点以下第1位を四捨五入していますので、小計・合計欄と各項目の単純合計は一致していません。

■環境会計の目的と考え方

ISO14001に基づく環境保全活動を、効果とコストから評価し、今後の計画に反映するための経営指標の一つとして、また、西武百貨店の環境保全活動に対する理解を深めていただくためのツールとして使用します。

■対象期間と集計範囲

- 2007年3月1日～2008年2月29日(西武百貨店会計年度)
- 環境マネジメントシステムの対象となる全事業所の集計

■集計内容の基準

- 環境保全コストの算定基準
 - ・投資および経費の中で、活動目的が環境保全以外に多岐にわたっている複合的な場合は、主たる目的が環境保全である場合のみその全額を計上し、差額集計・按分計算は行っていません。
 - ・経費には投資に伴って発生した工事費及び撤去費を含みますが、減価償却費は計上していません。
 - ・人件費は専任スタッフ分と店舗事務局の業務シェアで算出しました。
- 経済効果の算定基準
 - ・それぞれの環境保全活動の取り組みによって、利益に貢献した効果を計上しています。
 - ①収益
 - 実施した環境保全活動の結果として、当期において実現した財務会計上の収益
 - ②費用節減
 - 実施した環境保全活動の結果として、前期の費用から削減された費用
 - ・実質的な効果を算定の対象とし、回避されたリスクに関する推定的な効果は算定の対象としていません。
- 環境保全効果の算定基準
 - ・それぞれの環境保全活動の取り組みによって、環境負荷発生防止・抑制など低減に貢献した物量効果を算定の対象としています。

■参考としたガイドライン

環境省発行(2005年2月)「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に環境目的・目標に沿った集計を行いました。

■集計結果に対する説明

投資額は資産計上された分で2億430万円になりますが、2007年度投資案件は既存設備の老化更新が主な目的のため、更新に伴う効率改善や、前年の波及効果は計上していません。
・経済効果は、法人外務部の環境商材とエコバッグの売上収入およびキッズエコライフフェア対象商品売上収入に加え、紙類使用量や廃棄物処理量の削減に伴う経費減を計上しています。

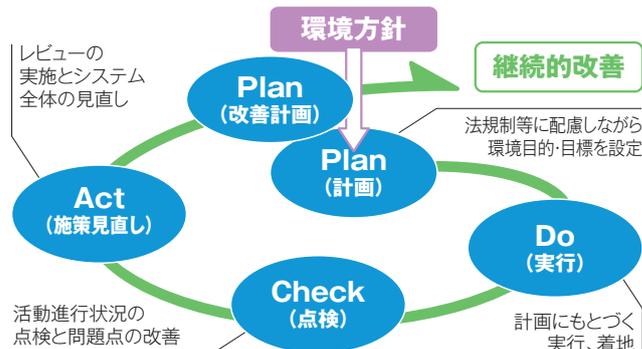
環境マネジメントの仕組みと運用状況

西武百貨店は着実に持続的な環境活動を実践するために、国際規格 ISO14001 にもとづいた環境マネジメントシステム (EMS) を導入しています。

西武百貨店の環境マネジメントシステム

国際規格 ISO14001 にもとづき、PLAN (目標・計画) → DO (実施と運用) → CHECK (実施結果の監視と測定) → ACT (是正処置、経営層による見直し) のサイクル (略称・PDCA サイクル) に沿った、持続的・発展的な環境マネジメントを行っています。

継続的な改善をはかる「PDCAサイクル」が基本



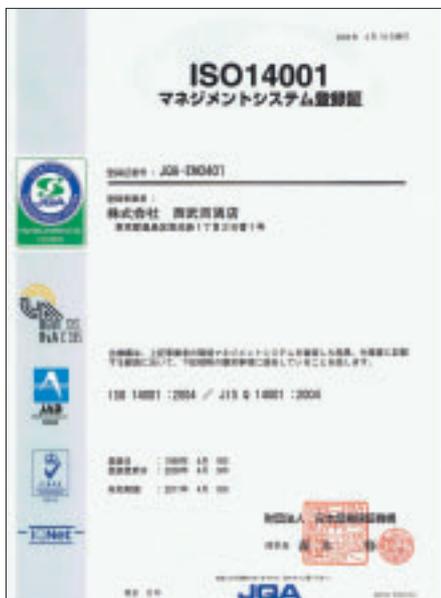
● ISO14001 登録状況

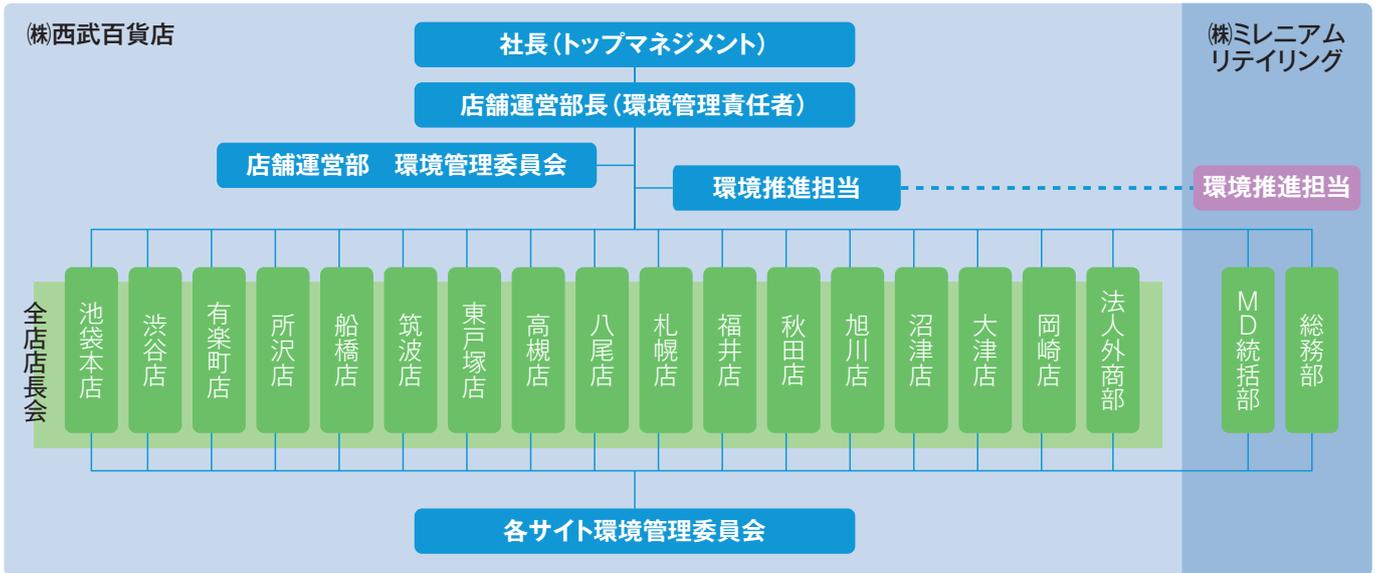
登録番号 JQA - EM0401
 審査機関 財団法人日本品質保証機構
 登録範囲 株式会社西武百貨店 (全店、全事業所)
 株式会社ミレニアムリテイリング
 (MD 統括部、総務部)
 登録日 1999年4月9日
 次期更新 2011年4月8日

環境マネジメントのための組織体制

環境マネジメントシステムは、トップマネジメントである社長のもと、店舗運営部長を環境管理責任者とし、西武百貨店 16 店舗、2 事業所 (店舗運営部、法人外商部)、ならびに西武百貨店の事業活動に不可欠な部門として 2004 年 5 月に拡大審査を受審し、ISO14001 の登録範囲に統合したミレニアムリテイリング 2 部門 (MD 統括部、総務部) の全 20 サイトで構成されています。

各サイトがそれぞれ環境管理委員会を組織し、店長や部門長を委員長として PDCA サイクルにもとづく活動を行い、環境管理責任者が委員長を務める店舗運営部環境管理委員会が各サイトの活動を統括しています。各サイトの活動を統括するためには、幅広い情報と審議が必要となるため、店舗運営部環境管理委員会は代表店舗 4 店・法人外商部・ミレニアムリテイリング 2 サイトからも委員が任命されています。また、サイト間の相互コミュニケーションは、全店店長会を通じて行われています。





「環境マネジメントシステム(EMS)」にもとづく1年間のおもな活動

	Plan (計画)	Do (実施・運用)	Check (監視・測定)	Act (是正・経営層による見直し)
3月	環境目的・目標の設定 推進体制の見直しと環境管理委員会メンバー発令	環境マネジメントシステム文書 定期見直し	下期(9~2月) および年間目標達成状況報告	全社マネジメントシステム の見直し(環境方針、環境 目的・目標など)
4月 (自社環境記念日)	月次で実施 ●環境管理委員会開催と進捗確認 ●入店時環境教育、環境デー教育 ●法令、条例等の確認	排出水の状態点検 特定業務従事者訓練	法規制等順守状況点検	
5月				
6月 (環境月間)	随時実施 ●社内外コミュニケーション ●不適合予防是正処置	エネルギー管理指定工場 中長期計画書・実績報告書提出 温室効果ガス排出量報告	サイト別 自主点検	
7月		廃棄物処理ルート実査 緊急事態発生時対応手順テスト		
8月		煤煙測定		
9月	環境目的・目標の見直し(修正) 推進体制の見直しと下期メンバー発令		上期(3~8月) 目標達成状況報告	
10月 (環境にやさしい 買い物キャンペーン)		法定資格保有者の確認 特定業務従事者訓練 環境マネジメントシステム文書の 最新版配布・管理状況確認	法規制等順守状況の点検	
11月	環境側面の定期見直し	層別環境教育 (eラーニング、全社員環境アンケート)	サイト別自主点検 内部監査員研修	
12月			内部監査	
1月			ISO14001審査	
2月		煤煙測定		環境マネジメントシステム の見直し(各サイト)

従業員への環境教育の徹底

環境活動を支える従業員の環境意識と専門知識・技術向上のために研修、訓練を定期的実施しています。

新規入店者研修と定例教育

西武百貨店では、新たに入店する契約社員（パートナー）、お取引先からの派遣社員（ダリアスタッフ）、テナントや



新規入店者研修

業務委託先社員など、すべての従業員を対象に、入店時に「販売基本ルール」にもとづいた環境方針や環境への取り組みについての研修を実施しています。

2007年度は「スマートラッピング」を重点活動に設定しました。それぞれの売場で「スマートラッピングとは何か」を従業員一人ひとりが考え、百貨店らしい包装サービスと環境活動を両立させる「スマートラッピング」を実行しました。一人ひとりの主体的な取り組みを促進する教育が重要と考えています。

また、店舗ごとに毎週1回「環境デー」を設け、全社共通の「環境テーマ」にもとづいた教育の徹底を図っています。「環境ニュース」では各店の環境トピックスや社外での環境活動などについて紹介し、情報の共有化も行っています。

環境eラーニング

本社員を対象にしたイントラネットを用いた環境教育「環境eラーニング」も5年を経て、2007年度は各自の理解の程度に応じたメニューを選択できるプログラムに変更し、学習時間の効率化を図りました。パートナー社員、ダリアスタッフ、テナント・業務委託先社員も「簡易版eラーニング」をビデオ、放送を通じて学習します。いずれも毎年1回実施しています。

専門教育・訓練

「著しい環境影響の原因となる可能性をもつ業務

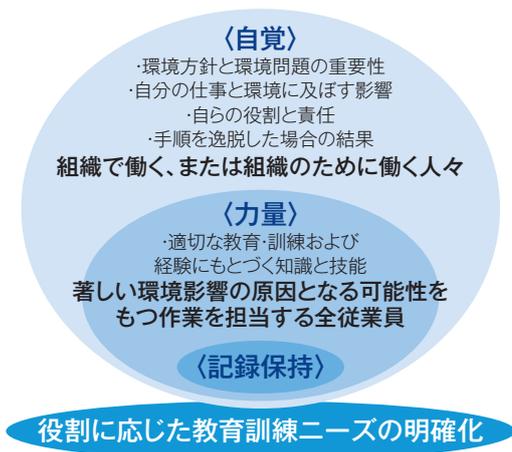
を担当する」全従業員に、専門教育を実施しています。対象者は、①PCB・フロンなど環境有害物質を扱う従業員、廃棄物の処理を行う従業員、②自家発電設備およびボイラーの運転を行う従業員、③化学薬品を扱う従業員、④テナント部課長会で教育、指導にあたる社員、⑤エコバッグの発注・販売に携わる社員で、年に2回教育・訓練の受講を義務付けています。

内部監査員養成研修とスキルアップ研修

内部監査員新規認定のため、年2回養成研修を開催、修了研修に合格すると社内資格を取得することができます。2007年度は新規に1名の内部監査員が認定され、計90名となりました。内部監査員は、11月に自サイトの活動をチェックする「環境定期点検」と、12月に店舗間で相互に監査を行う「内部監査」の計2回の点検を行います。

また、内部監査員の資格取得者を対象に、年1回スキルアップ研修を開催し、正しい内部監査を行うための監査技術の維持・向上に努めています。一度資格を取得しても、この研修を受講しなければ、その年度の内部監査を行うことはできません。2007年度は新任3名を含む38名の内部監査員が任命されました。

従業員に対する環境教育の考え方

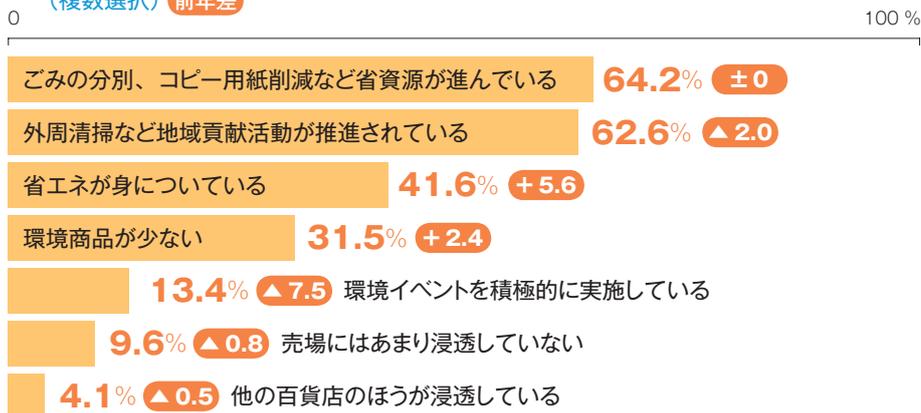


社員の環境意識 — 全社員アンケートから

2007年10月～11月に、環境eラーニングとともに、会社の環境推進・社会貢献活動に関する質問と、自分自身の日常生活におけるエコチェックを実施しました。2,709名の社員の回答から、環境推進・社会貢献活動への関心の高まりがうかがわれます。

① 西武百貨店の環境推進・社会貢献活動についてどう思いますか？

(複数選択) 前年差



② 西武百貨店として重点的に取り組むべき活動は？ (1つ選択) 前年差



③ あなた自身が日常生活でも実行していることはどれですか？

(複数選択) 前年差



アンケート内容から

● 会社の活動については売場にも浸透しており、コピー用紙削減など省資源や、外周清掃など地域貢献活動の評価が高くなっています。

● 一方で、「当社は環境商品の扱いが少ないと思う」「環境商品の展開を増やし開発にも取り組むべき」が前年より増え、また「環境イベントを積極的に実施していると思う」が減少、今まで以上にお客さまへの働きかけが必要であると考えています。

● 会社として重点的に取り組むべき活動としては「省エネ・省資源など日常的活動の徹底」や「環境商品の開発」「環境関連投資の実施」がウエイトを増やしており、環境問題に対する意識の向上を示しています。

● 個人の活動としては、「水道の蛇口はこまめに締める」や「マイカーの利用を控え、利用時にはエコドライブ」など、より身近な環境保全行動の回答が10%以上増加したことに加え、「環境商品を積極的に選択・利用」し「マイバッグ持参、不要な包装は断る」など、自分自身の消費生活に密着した行動が大幅に増えています。

環境マネジメントシステムの点検と改善

EMSの運用状況をセルフチェックする内部環境監査や外部機関による定期審査により継続的な仕組みの改善に努めています。

内部監査の実施

ISO14001のPDCAサイクルの中に、重要なチェック機能として内部監査があります。西武百貨店では登録全サイトを対象に、年1回実施しています。

2007年度は社内資格を取得した90名の中から主任監査員7名、監査員22名で店舗ごとのチームを編成し、12月3日から28日にかけて実施しました。

書類審査や売場係員へのインタビューの結果、各サイト70問以上の設問に対し、軽微な不適合は19件と改善(前年差▲10件)しましたが、前年度内部監査報告書類の提出もれという不適合が2件発見され、速やかに改善されたものの、文書管理面の課題となりました。

全体の良好率は94.1%と、前年を1.1%上回り、ほぼ適切に維持されている水準でしたが、監査項目別にはテーマのひとつであった「環境側面の理解」について指摘数が8件(前年差+7件)と大幅に増加し、その一方で前年悪化した「法的要求事項」(条例等の抽出もれ)は5件(前年差▲8件)と改善しました。

サイト別には「前年より改善」が11サイト、「前年維持」3サイト、「前年より悪化」が7サイトとなっており、昨年拡大した店舗間格差は縮まりました。今後は新規入店者に対する教育の徹底と、それを実践する現場での活動の活性化を引き続き図っていきます。

初回会議



売場インタビュー



厨房インタビュー

項目別指摘件数

(単位:件)

	合計	重大な不適合	軽微な不適合	観察事項
環境方針	1		1	
環境側面	8		3	5
法的要求事項	5			5
目的・目標・実施計画	6		2	4
体制および責任	8			8
訓練、自覚および能力	9		1	8
コミュニケーション	1			1
文書管理	11		5	6
運用管理	10		6	4
緊急事態への準備対応	1		1	
監視および測定	0			
順守評価	0			
不適合是正・予防措置	0			
記録管理	0			
内部環境監査	2	2		
マネジメントレビュー	0			
合計	62	2	19	41
推奨事項	20			

環境法規制などに対する順守状況

西武百貨店の事業活動に関連する公害防止、廃棄物など17分野41の法律について、毎年、全店舗で170項目以上にわたってチェックシートを作り、順守状況を点検しています。京都議定書約束期間の開始と前後してさまざまな法令が制定・改正されるなか、特に2007年度は、改訂のあったフロン回収・破壊法、食品リサイクル法、容器包装リサイクル法などについて重点的にチェックしました。

その結果、2007年度も前年に引き続き法違反となるものはありませんでした。ただし、電気主任技術者やエネルギー管理員などの資格者については、法的に必要とされる人員数を上回って配置することをめざしていますが、こうした予備人員確保が継続的な課題となっており、資格取得のサポートや業務委託先との連携などを進めています。

更新審査

2008年1月に更新審査を受審、環境マネジメントシステムが維持管理されていることが確認され、認証が継続されました。

審査実施日

2008年1月22日～1月25日

審査機関

財団法人日本品質保証機構

審査対象

13サイト(9店舗、西武百貨店2部門、ミレニアムリテイリング2本部)、トップマネジメント(社長)、環境管理責任者(店舗運営部長)

審査結果

改善指摘事項カテゴリー A

(システムに関する手順の構築が欠落) = 0件

改善指摘事項カテゴリー B

(システムの一部に欠陥が存在) = 0件

改善の機会

(改善の検討を行うべきもの) = 20件

ストロングポイント

(特筆すべき秀逸な事項) = 2件



初回会議(八尾店)



施設制御室(所沢店)



店頭インタビュー(渋谷店)



最終会議
(店舗運営部)

審査所見

西武百貨店は1999年4月にISO14001認証を取得し、その後、毎年1回審査を実施しています。今回は特に3年に一度の更新審査として、過去3年間の環境マネジメントシステムの有効性、継続的改善を確認、ISO14001の認証を引き続き登録できるか判定を行いました。

認証から9年が経過し、更新審査も今回で3回目となることもあって、訪問した各店で環境マネジメントシステムが整備され、環境管理委員長である店長以下、環境目的を達成するために全従業員が力を合わせて取り組んでいる様子が見られました。

今回の審査は20サイトのうち9店舗、本部4部門の計13サイトについて現場を実査、各部門での取り組み、不適合の是正、内部監査内容を重点的に審査した結果、ISO14001:2004に基づく環境マネジメントが包括的に継続して有効であると判定することができました。

さまざまな従業員によって構成されている各サイトの現場で環境マネジメントシステムを維持するにあたっては、教育体制がとりわけ重要になりますが、来店時の集合研修、週次の環境朝礼に加えて、2002年度以降毎年実施されている「環境eラーニング」による教育は、西武百貨店の環境活動全般が適切に理解でき、従業員のさらなる自覚の向上を目指すものになっています。

また2007年12月に内部監査が行われていますが、社内で認定された監査員が知識向上を目的として「内部監査員スキルアップ研修」を受講したうえで実施されており、そこでの指摘事項も前回までの監査結果を考慮した妥当なもので、有効に機能していると判断します。

審査結果として、今回も重大な指摘事項はありません。ただ、緊急事態を想定した手順や目標の設定・監視手法の面で、よりよい管理に向けた「改善の機会」が20件発見されました。

また今回は所沢店と法人外商部において、本業の営業面でマネジメントに環境推進業務を生かした事例が見られ、2件のストロングポイントとして認めました。

今後の活動としては、これまで推進してきた省エネ・省資源のレベルを維持・強化した上で、百貨店の営業活動を通して周囲に影響を及ぼすことのできる活動を強化し、挑戦的な目標を持って臨んでいくことが重要と考えます。

財団法人日本品質保証機構(JQA)

審査員 白川幸夫

環境にやさしい店舗づくりと店舗オペレーション

「京都議定書」による CO₂ 等温室効果ガスの削減目標の開始年度となった 2008 年は、社会やお客さまの環境意識が高まった年でもあります。西武百貨店でも外気冷房システムの導入など設備改善を進めるとともに、従業員一人ひとりが環境に配慮した行動をとることで、環境負荷の軽減に努めています。

従業員一人ひとりの“環境意識”の高まりと日々の行動、設備の更新により、CO₂の排出を防いでいます

事務所や倉庫などの蛍光灯を個別スイッチに替え、離席時など使用時以外の消灯を徹底。バックヤードでも不要な蛍光灯は取り外し、過剰照明をなくしています。

また、エレベーターの使用を控え、

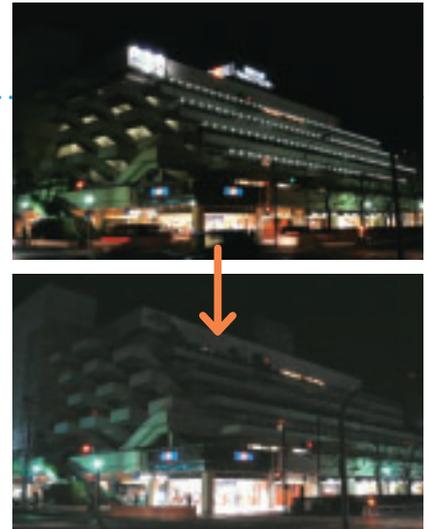
商品移動以外は階段を利用する「2UP 3DOWN 運動」の実行や、計画的な業務遂行による営業時間外送電の削減など、従業員一人ひとりの行動で電力使用量の低減に努めています。

設備面でも消費電力の少ない蛍光灯への切り替え、気温に応じて外気を取り込むことのできる外気冷房システムの導入などを進めています。

池袋本店では改装にあわせ、2010年までに変電設備や冷却設備を改修し、CO₂を削減します。

2007年度は全店のライトダウンを、6月

大津店でのライトダウン



の環境省提唱時に加え4月9日の当社環境記念日にも実施。1回2時間で約800kWhの電力が削減されます。夏には各店舗で「打ち水大作戦」を実施。お客さまにもお楽しみいただきながら、環境活動にご参加いただきました。



旭川店と旭川市、平和通り商店街合同で行われた「打ち水大作戦」

環境に配慮した店舗オペレーションを実現し環境にやさしいショッピングをお手伝いします

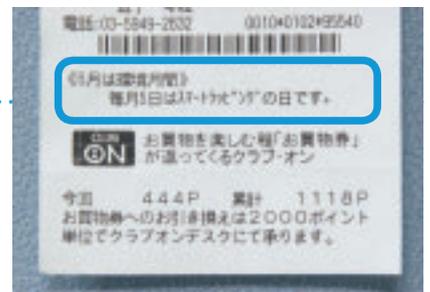
西武百貨店では、店舗のオペレーションでも環境に配慮した取り組みを行っています。

車両による環境負荷を低減するために、納品する商品を納品代行会社に一括集荷し、納品便を効率化する「納品代行システム」を積極的に推進しています。また、夜間・早朝納品、店舗では納品作業の30分ルールなど排気ガスや騒音の抑制に向けて様々な工夫と努力をしています。

ごみの削減に向けては、商品の納品

時に折りたたみ式のリターナブルコンテナを使用。衣料品のハンガー納品は作業時間の短縮と同時に段ボールの削減にも役立っています。

店頭では百貨店業界全体で推進するスマートラッピング（簡易包装）に取り組んでいます。従業員は入店時に簡易包装についての研修を受け、お客さまに積極的におすすめし、また店内放送やお買上げレシートでもお客さまのご理解とご協力をお願いしています。



レシートプログラム

また、環境商品のご紹介だけでなく、ご購入いただいた商品を末永くご使用いただくために、靴やバッグ、宝飾品などの修理コーナー、衣料品のリフォームコーナーを設け、環境にやさしいお買い物をサポートしています。

環境にやさしい「魅力ある複合商業施設」づくりを テナントお取引先とともにめざし、継続的に環境活動に取り組みます

魅力ある複合商業施設をめざして、専門テナントを積極的に導入しながら店舗改装を進めていくなかで、出店するテナントお取引先に対して取引

先説明会を実施し、環境関連法規・条例・社内規程の順守と、環境保全活動に関する教育・ルールの徹底と確認を行っています。

テナント部門の社員に対しては、テナント部課長会や各種研修を通じて、規程の順守・教育・ルールの周知徹底と確認を継続的にを行っています。

池袋本店の壁面緑化「垂直の森」



店舗の緑化や植樹にも取り組みます

店舗の緑化活動にもいち早く取り組み、たとえば池袋本店では1992年に店舗外壁の壁面緑化を行い、「垂直の森」という愛称で親しまれています。

船橋店では2004年9月に屋上庭園をつくり、お客さまに四季折々の草花を楽しんでいただくと同時に、空気の浄化やヒートアイランド化防止などの環境改善効果も考慮しています。

東戸塚店では、太陽光発電や風力発

電を、「光の広場」の夜間照明や屋上街路灯の電力に充当しています。また、アトリウムの緑でやすらぎを感じていただいています。

また、池袋本店こども服フロアでは、おかいものクマさんが定期的にどんぐりを配布。お客さまが育て、NPOに送っていただいた苗木を、社内ボランティアが参加して毎年植樹しています。



東戸塚店のアトリウムとソーラーパネル
(天井部分)



育ったどんぐりの苗木をお子さまと一緒に植樹

温室効果ガス排出量削減に向けて 多面的な取り組みを推進しています

西武百貨店は2005年2月の京都議定書の発効に先立ち、2003年度より2004年度にかけて環境省主唱で行われた「温室効果ガス排出量取引試行事業」に小売業を代表して参加。池

袋本店をモデルに排出量の算定基準や排出枠の仮想取引などの事例研究を行い、各分野の方々との情報交換をしながら、排出量取引に関するノウハウを蓄積しています。



店頭で定期的にどんぐりを配布

環境にやさしい商品やライフスタイルの提案

小売業として環境への負荷をできるだけ少なくすることはもちろん、快適な暮らしを実現するためのライフスタイルを提案。環境イベントを開催し、独自の選定基準による「環境配慮商品」もご紹介しています。

環境配慮商品の選定

西武百貨店では独自の「環境商品選定基準」を設定。第三者機関が選定基準の適合性を検査し、合格した商品を「環境商品」として認定、表示しています。

2007年の新規開発14アイテムを加え、環境商品は現在97アイテム(08年2月末現在)。有機野菜や味噌、しょうゆなどの調味料、コーヒーなどの嗜好



上/オーガニックコーヒー
左/オーガニックベビーウエア

品をはじめ、デイリーな食品がお客様の健康・安全安心志向を反映して好評です。ベビーウエアもオーガニック製品を指定される方が増えています。

西武百貨店 環境商品選定基準

- ①原材料や生産工程が低負荷であるもの
- ②再生素材を使用しているもの
- ③再生可能な商品であるもの
- ④省資源・省エネ商品であるもの
- ⑤環境保全を促進するもの
- ⑥環境負荷に関する表示のあるもの
- ⑦環境保全に積極的な企業により製造された商品であるもの

クールビズ&ウォームビズ

家庭や職場で実践できる環境にやさしい暮らしをご提案するのは、百貨店の役割のひとつです。2008年6月4日には、環境省主催、日本百貨店協会協力のクールビズ ファッションショーに参加しました。



クールビズ ファッションショー

循環型社会をめざして 食品リサイクルへの取り組み

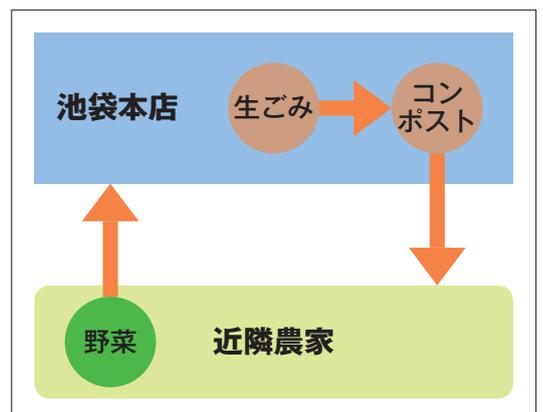
廃棄物処理の削減と循環型社会をめざして、西武百貨店の4店舗(池袋本店、岡崎、東戸塚、秋田店)に生ごみ処理機を導入しています。池袋本店と秋田店では店内で発生した生ごみを肥料化し、近隣農家にご提供。その肥料を使って生産された農産物を店頭で販売する資源循環システムを推進しています。



コンポスト処理機



コンポスト・エコ野菜





スタイリッシュエコフェア

西武・そごう共催 Love Planet 2008 スタイリッシュエコフェア 自然を愛し、もっと素敵な毎日を。

ミレニアムリテイリンググループは、エコをスタイリッシュに取り入れる新しいエコスタイルをご提案しました。

開催店舗・会期

西武池袋本店
2008年5月21日～6月10日
そごう横浜店
2008年5月20日～6月9日
シブヤ西武
2008年5月27日～6月9日

西武池袋本店、そごう横浜店では、催事場で化粧品を中心とした環境にやさしい暮らしを編集した「エコビューティー・スタイル展」を、日本経済新聞社と共同で開催しました。

「貢献活動」「フェアトレード」「天然成分」「啓蒙活動」「環境配慮」「第三者認定」の6つの基準から厳選した商品は、多くのお客さまに共感していただきました。

また、各店舗では最新モードファッション誌「ハーパス・バザー」監修の「グリーンバザーショップ」を開設し、オーガニックコットンなど素材に

こだわり、環境に配慮したスタイリッシュなファッションを提案。地球にも自分にもやさしい等身大のエコライフスタイル商品をファッション、雑貨、食品、インテリアの各フロアで提案しました。

イベントではデザイナーやミュージシャン、政治家など各界で活躍中の著名人11人が、環境への思いを込めてデザインした「フロシキ」を展示し、チャリティーオークションを開催しました。チャリティーオークションには152名のお客さまのご応募をいただきました。

なお、「エコビューティー・スタイル展」の売上の一部および、フロシキチャリティーオークションにて落札（購入）いただいたすべての収益金は「自然・文化創造工場」*に寄付しました。

この企画で得たお客さまの声や情報を、今後の商品展開に生かしていきます。



「エコビューティー・スタイル展」 6つの基準

(いずれかに該当する商品)

- ・貢献活動
収益金の一部を社会貢献、環境貢献に寄付、または支援
- ・啓蒙活動
消費者に環境問題の啓蒙を実施
- ・フェアトレード
適正で公平な貿易で、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活向上を支える
- ・環境配慮
環境に配慮した生産
- ・天然成分
素材成分に植物または天然原料を積極的に使用
- ・第三者認定
ECOCERT、BDIH など第三者認定のある商品



著名人11人が環境への思いを込めてデザインした「フロシキ」をフロアに展示



環境に配慮し、しかもオシャレな品々にこだわりました



上/使用原料や環境への取り組みから厳選された化粧品
下/来場されたお客さまは商品の背景について熱心に読み込んでいました

*「自然・文化創造工場」は自然環境の破壊に胸を痛めた作家たちにより設立された、自然保護と回復のための活動を行う団体です。26

西武百貨店が提案するオリジナル・エコバッグ

2000年から販売を開始した西武百貨店のエコバッグ。そのコンセプトとバッグの変遷、新しい取り組みをご紹介します。

西武のエコバッグは13型33色に

西武百貨店ではスマートラッピングの一環として、2000年6月から「ファッションブルなエコバッグ」をコンセプトに「SEIBUオリジナルエコバッグ」の販売を始めました。

このエコバッグはペットボトルのリサイクルから生まれる再生ポリエステルを使用し、シンプルでファッションブルなデザインと機能性を重視して作成。その後もお客さまの声を反映して改善を加えています。

また、多くのお客さまからのご要望を受け、2002年9月に保冷バッグを、2005年9月には保冷機能付のショッピングカートも導入し、その種類は13型33色になりました(一部廃番あり)。

そして2008年5月には、包装紙を使わないラッピングという、まったく新しいコンセプトの「ラッピングエコバッグ」を発売しました。

今後もエコバッグの販売を通して、お客さまのマイバッグ持参とレジ袋、手提袋削減を推進していきます。



リバーシブルタイプ



ポケットインタイプ



新保冷タイプ



おかいものクマタイプ

発売	型/カラー/特徴
2000年6月	リバーシブルタイプ 4色(8色) 表裏の2色。ドロースtring(引ヒモ)で巾着型に変化
	トートタイプ 2色 内ポケットやフック(鍵・携帯用)付き
2001年6月	キューブタイプ 2色 横長でマチがたっぷり。お弁当、惣菜用
	ギフト用大型タイプ 2色 箱入ギフトも入る大型。軽くて丈夫、雨に強い
	ポケットインタイプ 3色 クルクル丸めて小さくなり携帯に便利
2002年9月	保冷バッグ 2色 内側にアルミを張り保温・保冷可
2003年6月	新ポケットインタイプ 2色 ちょっと大きめ、よりコンパクトに収納
	スクエアタイプ 2色 A4の書類も入り、軽い。サイドに携帯用ポケット
2004年10月	新保冷バッグ 2色 ちょっと大きめ、ワイヤーストラップ柄
2005年9月	ショッピングカートタイプ 4色 ポケットが多く整理収納しやすい保冷インナーバッグ
2007年10月	おかいものクマタイプ 2色(4種) おかいものクマのキャラクターバッグ、スクエアタイプ
2008年5月	おかいものクマタイプ 2色 人気タイプにブラックとコーラルピンクの2色追加
	ラッピングエコバッグ 2色 環境に配慮したギフト包装エコバッグ



ショッピングカートタイプ

ギフトパッケージ×ラッピング=ラッピングエコバッグの誕生

西武百貨店では、ギフトラッピングできるエコバッグ「ラッピングエコバッグ」を2008年5月、母の日に向け発売しました。これは西武百貨店が2007年10月に「スマートラッピングアイデア」を社内公募した際に選ばれた最優秀作品を商品化したものです。

- 環境活動に積極的に取り組む小売業として、簡易包装から一歩進めた「スタイリッシュで環境に配慮あるラッピング」をお客さまに提案しました。
- ギフトを受け取られた方は、ラッピング素材をそのままエコバッグとしてご利用いただけます。



特徴

- ① 柔らかい素材なので、ラッピングしたような華やかさがあります。
- ② 持ち手を内側に取り付けたので、ラッピングするときは中に隠せます。
- ③ バッグとして使用時、巾着型で使用すれば中身が見えません。



ラッピングエコバッグの

発案者

岡崎店
矢野紀子さん

Q 発案のきっかけは…

▶ ラッピングステーションというセクションに勤務しており、日々たくさんの包装紙を使う仕事をしています。そこで、最初からエコバッグでお包みすれば無駄なごみが出ないと気づき、応募しました。

Q アイデアが商品化されたことについて

▶ 私としては、すでにあるエコバッグを使うことを考えていたため、新しい商品になると聞きびっくりしました。

法人外商部 環境ビジネスへの取り組み

西武百貨店法人外商部では、リサイクル商品の開発や環境関連商品の販売、さらに資源回収システムの構築まで、企業や団体のお客さまが直面する環境課題にトータルに対応し、コンサルティングを含む解決策などを積極的にご提案しています。

法人外商部の環境ビジネス

- リサイクル商品の開発・販売
- 省エネ・省資源商品の開発・販売
- 塩ビ代替商品の開発・販売
- ユニフォームのリサイクルシステムの構築など

定期的に行っているお取引先の工場での研修風景。ものづくりの生産工程のなかで環境対応について確認しています



環境に配慮した商品の開発・販売

【ユニフォーム】

環境視点の高まりのなか、ユニフォーム分野でも再生資源の活用が注目されています。特にワーキングユニフォームやオフィスユニフォームでは、飲料会社や鉄道会社、官公庁などを中心に再生ポリエステルを使ったユニフォーム需要が拡大しています。

法人外商部では、こうした素材からの商品開発とあわせ、廃棄後の再利用方法まで含むトータルな環境負荷を考慮したユニフォームのリサイクルシステムの提案や、ICチップを活用した個別管理システムの採用による業務面での効率化など、お客さま企業のニーズに対応した取り組みを行っています。

【セールスプロモーション】

セールスプロモーションの分野でも、「環境」や「エコ」をテーマにした商品アイテムが増えています。たとえばエコバッグやマイ箸などで、著名デザイナーやブランドとのコラボレーションによるファッション性を高め



た商品開発により、企業イメージの向上にも寄与しています。特に金融・出版・流通などの分野で多く採用されています。

【包材・資材】

法人外商部ではギフトパッケージなどの包材・資材も扱っています。原油の高騰の影響もあり、従来のプラスチック素材の見直しや軽量化等の商品開発や提案を行っています。

また、環境負荷の少ない「ファルカ



ファルカタ材を使用したギフトパッケージ

タ(南洋桐)」を使ったパッケージはコストも安く、環境視点からもおすすめできる商材です。

人にやさしい百貨店として

西武百貨店は盲導犬育成支援事業をはじめとする地域・社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。また、すべてのお客さまに安全安心にお買い物を楽しんでいただけるよう、サービスの充実を図っています。

盲導犬育成事業支援活動を推進

西武百貨店では、盲導犬育成事業支援活動を推進しています。活動の一端として2004年9月より全店に募金箱を設置し、お客さまに募金のご協力をお願いしています。2007年度(07年3月～08年2月)にお客さまからお預かりした募金総額10,396千円は、店舗近隣7つの盲導犬育成団体に寄付しました。

また、視覚障害者および盲導犬に対する理解促進を図るため、育成団体の協力を得て、「盲導犬ふれあいキャンペーン」を年に2回(春・秋)開催しています。このキャンペーンでは、訓練

士によるデモンストレーションや実際に盲導犬を使用しているユーザーとのコミュニケーション、通常触れることのできない盲導犬とのふれあいなど、頭数が大きく不足している盲導犬の実状を知っていただくとともに、盲導犬をより身近に感じていただき、さらなる理解と協力の促進に努めています。

社内では、2005年6月に会社と労働組合の拠出金で「西武ミレニアム基金」を設立。60%以上の社員が参



盲導犬ふれあいキャンペーン(左/札幌店、右/東戸塚店)

加している社内募金制度「西武ワン！コイン倶楽部」で基金を支援し、全国の盲導犬育成団体に毎年1,000万円の寄付を行っています。

一連の活動を評価していただき、2006年10月には朝日新聞社の「第3回朝日企業市民賞」を受賞しました。

「ハートフルアドバイザー」「コンシェルジュ」がお客さまのお買い物をサポートします

「ハートフルアドバイザー」は財団法人総合健康推進財団が認定する民間資格で、高齢者や障がいのあるお客さまに対する店内案内、移動の介助など、お買い物のお手伝いをするための知識と技術を身につけています。西武百貨店では2001年からこの資格取得をめざす研修を実施し、すべてのお客さまに安心してお買物を楽

しんでいただけるよう努めています。2006年10月には、同財団より感謝状をいただきました。2008年5月現在で、749人が認定されています。

また、大型店などに配置されたコンシェルジュは、店内の諸施設やサービスのご案内、お買い物相談など、お客さま一人ひとりのご要望に的確にお応えします(2008年5月現在23名)。

店舗外周清掃や店内見学会・職場体験で地域に貢献

2007年度は全店で817回、延べ11,276人以上の従業員が参加して店舗外周清掃を実施。10月28日のセブン&アイHLDGS.全国一斉清掃に、1,860人の従業員が参加しました。

また、地域の小中学校や自治体、民間団体などのご要望に応じて、店内の見学会や職場体験を実施し、環境教育やマナー研修等の機会を提供しています。

従業員の働く環境

職場環境の改善に向けて

各店では毎月労使で「職場会議」を開催し、時間管理の徹底や、現場の声を反映した職場環境の改善に努めて

います。また、店舗では現場の課題に細かく対応できるように「労働安全衛生委員会」「社員食堂改善委員会」「時間管理委員会」など、さまざまな話し合いの機会を設定しています。

さらに「能力開発プロジェクト」で、現場の意見を反映させた研修機会の創出にも積極的に取り組んでいます。

ハラスメント防止とイエローホイッスル制度

経営の透明性を高めコンプライアンスの意識を徹底し、健全な企業体を維持するために、2004年より「イエローホイッスル制度」をスタート。これは従業員が「おかしい」と思ったこと

お客さまの安全安心を守るために

お客さまの安全安心に対する信頼に応えるため、さまざまな取り組みを継続しています。

衣料品から食品まで、厳密な品質管理を徹底

売場の3分の1以上を占める衣料品は、色落ち・強度・耐洗濯性に問題がないか確認し、毎月1回、大型店舗を中心に外部機関が売場の商品について表示内容との整合性、外観、縫製の状態などを調べています。問題が見つかった商品には、担当者やお取引先に対して速やかに改善するよう指導しています。

また「食の安全安心」に対する意識

が高まるなか、コンプライアンス強化、食品事故の防止、表示の適正化などを目的に2008年4月、「品質管理委員会」を設置。売場・厨房の衛生管理や期限表示・廃棄点検の実施、食品衛生管理研修、取引先コンベンション、媒体商品品質見分会、バイヤーによる現場指導など、本部・店舗の品質管理委員会が一体となり、食品衛生管理に取り組んでいます。

すべての人々の「使いやすさ」に配慮して施設・設備を設計

東戸塚店と岡崎店は、高齢者や障がいのあるお客さまにも利用しやすい建築基準を定めた「ハートビル法」に基づいて設計・建築されています。

西武百貨店では、この2店舗以外でも既存店舗のバリアフリー化を順次進めています。2006年9月には有楽町店、2007年3月には渋谷店を

リニューアルし、スロープの設置や段差のないフロア設計など、施設の見直しと整備を行いました。

また、全店にAED（自動体外式除細動器）を導入。すべてのお客さまに安心して安全にお買い物を楽しんでいただけるよう、さらに見直してまいります。

個人情報管理のセキュリティ対策を強化

ミレニアムリテイリングと西武百貨店では、それぞれ「情報セキュリティ委員会」を設置し、各売場に「顧客情報管理責任者」を配置しています。

また、全従業員に対して「個人情報保護ルール」を徹底、個人情報管理の重要性を意識させるとともに、定期的な自主点検を実施しています。

を、第三者である社外の弁護士に直接通報できる制度です。従業員からの通報は実態調査のうえ、経営層に報告されます。また、ミレニアムリテイリング社内にも相談窓口を設けています。

さらに、「ハラスメントガイド」を新たに作成し、互いの人権を尊重する明るい職場づくりに取り組んでいます。

社員のやる気とやりがいを引き出す人事制度

お客さまの信頼を支える従業員の意欲とやりがいのある風土づくりを目指しています。シューフィッターやフィッティングアドバイザー、ギフトアドバイザーなどの専門販売員育成

防災訓練を定期的に実施

不特定多数のお客さまが出入りし、従業員数も多い百貨店は、地震や火災が発生した場合に被害が拡大する可能性があるため、店舗では「防犯防災対策委員会」を設置して防犯・防災計画を策定しています。自衛消防隊を組織し、万が一の場合に適切な行動が取れるように定期的に消防訓練を実施。店舗に勤務する従業員全員がこの訓練に参加しています。また、2008年より「緊急地震速報による自動放送」に基づく活動として地震訓練も実施。営業時間中に緊急地震速報が放送され、その直後に地震が発生したとの想定で訓練を行いました。



上／消火器操作訓練(池袋本店)
左／火災避難訓練のもよう(池袋本店)

で、キャリアアップをサポートします。

出産・育児休暇、育児時間、介護休職、介護勤務など出産・育児・介護と仕事を両立させる制度は、パートナー社員まで対象を広げて充実を図っています。2006年10月に八尾店屋上に保育園をオープン、当社の従業員を含めた働くお母さんを応援しています。

店舗の地域活動・社会貢献活動

各店舗がお客さまとともに環境問題を考え、地元の方々と取り組む地域活動をご紹介します。

池袋本店

東京都豊島区

百貨店見学会を実施

6月23日に高校生を対象に百貨店見学会を実施。23名の女子高校生の皆さんを、店内の後方施設を中心にエコセンター、防災センター、ストックヤードなどにご案内しました。あわせて西武百貨店の環境活動、盲導犬育成事業支援活動についてもご説明しました。



池袋本店研修資料



池袋本店エコステーション

所沢店

埼玉県所沢市

「おかいものクマバッグ」収益金贈呈式を開催

2007年9月に開店以来初となる全館大改装を無事に終え、リニューアルオープンした所沢店。開店記念品として所沢店限定「おかいものクマバッグ」(2色1,000本)を販売し、開店後約10分で完売しました。その収益金は緑化事業へ寄付。11月15日に斉藤店長より当麻所沢市長へ贈呈しました。



渋谷店

東京都渋谷区

「ドライフォグ」による屋外冷房実施

渋谷区、公園通り商店街振興組合、地元企業と連動し、6月～9月の間、ドライフォグによる屋外冷房を実施しました。ドライフォグは20～30ミクロンという微細な霧(ドライフォグ)が蒸発する際に、周囲の空気から熱を奪う(気化熱)ことにより冷却効果をもたらすため、人や地面を濡らすことなくわずかなエネルギーで2～10℃も気温を下げるすることができます。



有楽町店

東京都千代田区



「盲導犬ふれあいキャンペーン」開催

2007年11月17日に(財)アイメイト協会による「盲導犬ふれあいキャンペーン」を実施しました。全国にある盲導犬協会のなかでもっとも歴史のある(財)アイメイト協会から、盲導犬サファイアちゃんに参加してもらい、基礎訓練のデモンストレーションを実施。立ち寄られたお客さまが、アイマスクを着用した体験歩行に参加されました。

船橋店

千葉県船橋市

「百貨店の花形」ご案内係・体験教室」開催

2007年8月25日、夏休みの思い出づくりの一環として、地域のお子さまに百貨店のご案内係の業務(総合案内所/店内放送業務)を体験していただきました。参加者全員そろっての「入学式」から「事前研修」を行った後に、実際の業務を体験していただき、終了時には「修了証」と写真を進呈しました。



筑波店

茨城県つくば市

(上)消灯前(下)消灯後

**「ブラックイルミネーション」に参加**

2007年6月24日の夏至の日に「ブラックイルミネーション」に参加し、ネオンサインや壁面の照明を20時～22時の2時間消灯しました。日頃いかに照明を使用しているかを実感していただき、温暖化対策を実践するきっかけになればと、西武百貨店では2004年から毎年、夏至の日を実施しています。全国の百貨店、コンビニ、観光施設など63,000施設でブラックイルミネーションを実施した結果、2007年は2,932,013kWh、約200世帯分の年間電力使用量を削減することができました。

高槻店

大阪府高槻市

「地元大学のスプリングコンサート」に会場提供

地元大学とタイアップして定期的に発表の場を提供しています。2008年3月21日には追手門学院大学吹奏楽団スプリングコンサートを正面入口前で開催。大勢のお客さまがお買い物の合間に集まり、素晴らしい演奏に耳を傾けました。

**東戸塚店**

神奈川県横浜市

横浜港開港150周年行事に協力

2007年10月6～7日、横浜市、戸塚区役所と連動し、戸塚区内で活躍されている市民団体による「横浜港開港150周年カウントダウンステージ」の会場を提供し、運営をお手伝いしました。当日は多くのお客さまが演奏に耳を傾け、音楽を楽しめました。この他にも10月2～15日の期間、「MY TOWN 東戸塚歴史パネル展」「横浜港



開港150周年プラットフォーム」「横浜港開港150周年スタンプラリー」「カウントダウンフォーラム」などを開催しました。

八尾店

大阪府八尾市

「環境マイバッグフェア and 地球温暖化防止パネル展」開催

今、注目を浴びている各種エコバッグを「環境マイバッグフェア」として集積販売したところ、多くのお客さまから好評をいただきました。また、八尾市環境保全課と連動し、「地球温暖化防止パネル展」を同時に開催。期間中、当社の労使で取り組んでいる「プルタブ回収ボックス」を設置したところ、2週間で3kgが集まりました。



左／プルタブが3キロも集まった
下／さまざまなエコバッグを集積

**札幌店**

北海道札幌市

**「ウェルカムフラワープラン」に参加**

札幌市が企業とタイアップして、花とみどりを主体とした街路景観づくりを行う「ウェルカムフラワープラン」に参加し、店の出入口にコンテナによるフラワーガーデンをつくりました。駅前地区の景観向上に寄与し、市民の皆さまに喜んでいただいています。

福井店

福井県福井市

「電気自動車」展示

環境月間の6月に、関西電力と三菱自動車が共同開発した電気自動車を、関西電力よりお借りして展示しました。事前に新聞などで告知したため、関心をお持ちのお客さまが朝から多数来店され、熱心にご覧になっていました。



秋田店

秋田県秋田市

コンポストを無料配布

毎月20日に秋田店エコステーションにある生ごみ処理機でつくったコンポストを、サービスカウンターにて先着50名様に無料配布し、ご好評いただいています。エコステーションでは生ごみ処理機のほかにも発泡スチロール溶融機によるインゴット化など、ごみの削減、リサイクルに積極的に取り組んでいます。



無料で配布するコンポスト(肥料)

沼津店

静岡県沼津市

「第19回沼津フリーマーケットフェスティバル」に参加

沼津市では2008年1月27日、「第19回沼津フリーマーケットフェスティバル」を開催。このイベントは「考えよう 地球・環境・暮らし」をテーマに、リサイクル品の販売や環境関連情報の発信などを行い、毎年多くの方々が参加しています。沼津店はこのイベントに毎年参



加しており、ISO認証登録事業所コーナーで環境パネルを展示。西武百貨店の環境にやさしい店づくりや環境目標の達成状況などをパネルで紹介しました。また、西武百貨店の環境活動をまとめた『環境・社会活動報告書2007』も配布し、広く活動を紹介しました。



大津店

滋賀県大津市

「打ち水大作戦」を実施

2007年8月18日、地元商店街、パルコとともに「打ち水大作戦」を実施しました。これは滋賀県温暖化防止推進センターの後援をいただいたイベントで、滋賀県のイメージキャラクター「ウオータン」とともにJR膳所駅から大津店正面入口まで、打ち水をしながら商店街を行進しました。



空いたペットボトルに打ち水用の水を詰めて利用しました

旭川店

北海道旭川市

冬のあたたかいおもてなし

2007年下期、旭川店では旭川市共同事業体と連携し、毎年恒例となりつつある「雪の中でもてなし隊」の活動を行いました。これは旭川店のハートフルアドバイザーが、旭山動物園を訪れた障がいのある観光客に対して介助ボランティアを行うもの。また、旭川市障害福祉課・障害者団体と連携し企画立案して開催した「ハートフルワークショップバザール」(福祉施設・作業所製品販売会)は地域からの注目を集め、お客さまや地域の福祉関係者から感謝の言葉をいただきました。



岡崎店

愛知県岡崎市

岡崎市環境部主催「マイバッグキャンペーン」開催

2007年6月23日、岡崎市が推進している「マイバッグキャンペーン」を岡崎市環境部の主催で開催しました。当日は環境クイズや省エネ診断に大人からお子さままで大勢のお客さまにご参加いただき、大いににぎわいました。



環境・社会活動の情報提供

	社外への情報提供	社内への情報提供
Web	環境ホームページ 毎月更新	社内環境活動情報ボード 毎月更新
印刷物	環境・社会活動報告書 年1回発行	社内報/環境ニュース 月1回
店頭活動	商品、広告・表示、イベント 随時	社内環境活動 随時

より多くの方々に、よりタイムリーな環境情報が提供できるように、2006年1月に西武百貨店HPの環境サイトをリニューアルしました。(http://www2.seibu.co.jp/usrinfo/ecology/index.html)

ご協力団体のHPとも連動し、より広範な情報提供を心がけています。

また、小学校高学年のお子様向けに「エコキッズルーム」(http://www2.seibu.co.jp/corporate/ecology/ecokids/index.html)も開設。おかいものクマやカンガエルー君も登場し、楽しみながら当社の環境への取り組みをご理解いただけるように工夫しています。



環境ホームページ

社外とのコミュニケーション

店舗での外部コミュニケーションは引き続き活発に行っています。

(前年は、容器包装リサイクル法改正などを控えて本部への調査・協力依頼が増大していました)

2007年度の案件	件数		おもな内容	前年差	
	全体	うち店舗対応分		全体	うち店舗対応分
① アンケート・調査表への協力依頼	27	16	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政機関：環境省、経産省、都道府県、市等/省エネ、レジ袋等のアンケート…………… 14件 ● 他団体・企業：日本百貨店協会等/「百貨店の環境対策に関する定期調査」および「夏場の冷房温度を緩和する取り組み」等のアンケート…………… 4件 ● 利害関係者等：学校、新聞社等/「CSR調査」「経営度調査」エコバッグ取材等…………… 9件 	▲5	+7
② キャンペーンへの協力・エコフェア出展、各種応募、申請依頼	27	24	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政機関：環境省、都道府県、市等/「環境フェア」「アースデイ2007」「環境にやさしい買物キャンペーン」「打ち水大作戦」への協力等…………… 21件 ● 他団体・企業：日本百貨店協会、NPO等/「スマートラッピングへの取り組み」「ノーレジ袋推進パレード」参加等…………… 4件 ● 利害関係者：町内会、養護学校/町内一斉清掃への参加、校外学習受入れ…………… 2件 	▲13	▲7
③ 外部団体への参加依頼・講師依頼	15	15	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政機関：県、市等/「簡易包装を買おうプロジェクト」「環境保全活動研修会」等への参加…………… 12件 ● 他団体・企業：PTA、生活学校連絡協議会等/「ベルマーク回収」「レジ袋減らし隊」等への協力…………… 3件 	±0	+3
④ 法規制・条例・その他情報	1	1	● 行政機関：市/生活環境保全条例の発布説明…………… 1件	▲2	▲1
⑤ 苦情・ご意見	1	1	● 利害関係者：町内会/提携駐車場24時間化へのご意見…………… 1件	+1	±0
⑥ お礼状	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政機関：市/リニューアルオープン記念エコバッグ収益の一部寄付…………… 1件 ● 他団体・企業：日本百貨店協会/当社廃棄物処理施設他社視察受入れ…………… 1件 	▲1	+1
計	73	58		▲20	+3